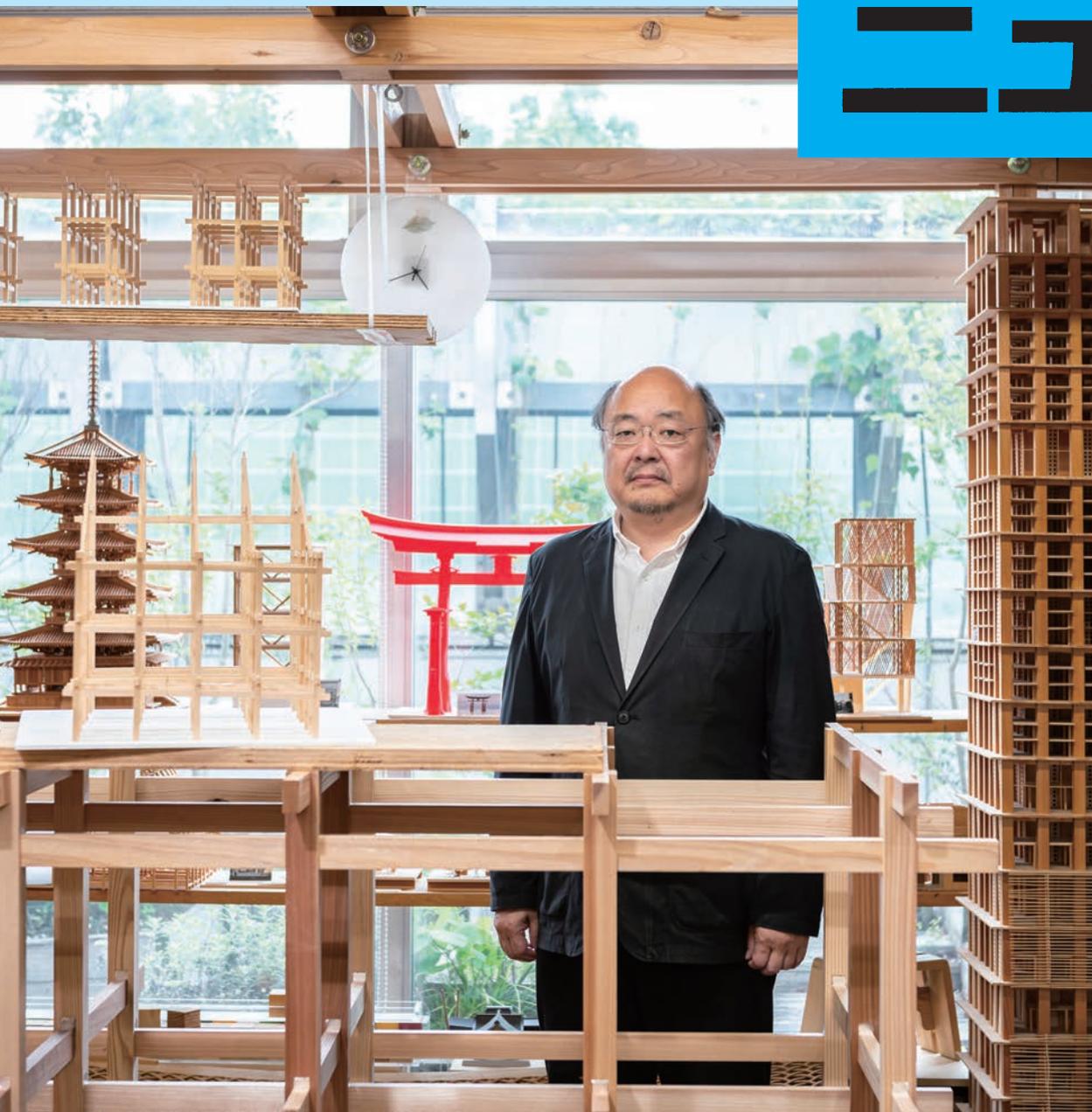


生研 ニュース

IIS NEWS
No.206
2025.7



●人間・社会系部門
教授
腰原 幹雄

木造の中高層ビル、厳島神社の鳥居、いま話題の大阪・関西万博の大屋根リング。写真には、様々な模型が並びます。伝統建築の保存から都市木造の普及まで、「あらゆる木造の陰に、この先生あり」。いまやそう言っても過言ではないかもしれません。表紙を飾っていただいたのは、人間・社会系部門の腰原幹雄教授です。

20世紀後半は、大規模な木造建築物にとって、実は冬の時代でした。高さや階数に制限があったからです。それらが完全に撤廃されるのが2000年。腰原先生が博士を出て、大学で研究者人生を歩み出す頃です。いわば春を迎えた木造ですが、とはいえ、中高層の木造ビルを建てる構造設計のノウハウはありません。「ならば自分が」と、構造分野から木造ビルの実現に関わってきました。

「誰もやってくれないところを研究して、誰かがやってくれるなら道を譲る」。そういう流儀だそうで、いまでは色んな企業が取り組むようになった中高層木造の構造設計には、やや道を譲りながら（それでもたくさんアドバイスしているでしょうが）、議論紛糾の大屋根リングの

リユースに知恵を絞っているのも、その現れなのかもしれません。

目下の課題は、中高層木造の水平展開。特殊な工法で競い合っているうちは横に広がらず、同じような寸法の材料を使って、各自が勝手に工夫して建てられるくらいになると広がると言います。105の倍数からなる大屋根リングの部材寸法がそれに適うとわかれば、リユースも広がるのかもしれません。

そんな腰原先生の原点は、ものづくりが好きな少年。研究に木造を選んだのも、鉄やコンクリートと違って自分でガチャガチャいじれるから。とりあえず自分で手を動かしてつくってみる。失敗してみる。そうすると仕組みがわかる。つくれる職人を敬える。そんな人を育てたいと言います。ガチャガチャ系の研究室で、学生たちと模型づくりに勤しむ時は、やや強面の先生も、きっと少年のような笑顔でしょう。

(広報室 林 憲吾)

IIS
TODAY

CONTENTS

REPORTS

- 3 「東大駒場リサーチキャンパス公開2025」の開催
- 4 「東大駒場リサーチキャンパス公開2025」 広報室企画報告
- 5 「東大駒場リサーチキャンパス公開2025」 次世代育成オフィス(ONG)活動報告
- 6 2025年度 生研同窓会総会・パーティーを開催
- 7 増沢 隆久 名誉教授が令和7年春叙勲 瑞宝中綬章を受章
- 8 羽田野 直道 教授、菅野 裕介 准教授が文部科学大臣表彰を受賞
- 9 本所 岡部 徹 教授 がTMS 2025 LEADERSHIP AWARDを受賞

March

- 10 生研海外拠点RNUS (Regional Network Office for Urban Safety) タイでRNUSセミナー開催
- 11 第32回 生研フォーラム「宇宙からの地球環境・災害のモニタリングとリスク評価」
- 12 第2回HPC産業応用拡大プロジェクトシンポジウム 開催
- 13 第115回レアメタル研究会「バッテリーメタルの現状と将来」の開催
- 14 UTokyo-IIS Research Collaboration Initiative Award 2024授賞式を開催
- 15 第9回 東京大学ーケンブリッジ大学合同シンポジウム
- 16 「大学人のスタートアップ講座 vol.3」を開催

April

- 17 第13回海中海底工学フォーラム・ZERO開催

May

- 18 天津大学機械工学部と国際交流協定を締結
- 19 ダイニングラボ活動報告

June

- 20 第6回UT²-MAC (第23回UT²) 学生ワークショップ開催報告

PRESS RELEASE

March

- 21 記者発表「二次元格子をひねって重ねると一次元超格子が出現
——二次元原子層物質が一次元物性研究の新しいプラットフォームに——」
- 21 共同発表「国内初！岡崎市と東京大学生産技術研究所は
「長時間洪水予測技術を用いた災害対策の推進に関する協定」を締結しました。」

April

- 21 記者発表「三次元マイクロ流路で半導体チップの省エネ水冷を実現
——AI半導体の高性能化を支える高効率放熱技術——」
- 22 記者発表「色の変化で力を可視化するウェアラブルセンサの開発
——感度の限界を突破！異方性制御で力に反応するスマート素材を高感度に——」

May

- 22 記者発表「ウィルスと同サイズの微粒子を捕捉
——ナノファイバー製フィルターと分子性ナノシートの複合化——」
- 22 記者発表「がん-微小血管チップでがん転移過程の一部を可視化
——分子標的薬の開発や薬剤スクリーニングへの応用に期待——」
- 23 記者発表「培養肉の「味成分」は熟成で増加——分化と熟成がもたらす遊離アミノ酸変化を解明し、味制御へ——」

June

- 23 記者発表「固体表面上の氷の形成を操る“水”の構造の秘密を解明
——氷の形成は基板表面付近の水の秩序構造で決まる——」
- 23 記者発表「ゲートオールアラウンド型 ナノシート酸化物半導体トランジスタを開発
——半導体の高集積化・高機能化へ期待——」
- 24 共同発表「本所と日立、データベースの再帰問合せを高速化する「動的ブルーニング技術」を開発」

VISITS

PERSONNEL

AWARDS

SNAP SHOTS

INFORMATION

PLAZA

FRONTIER

- 暮らしの中のメキシコ —国費留学生としての1年から
(人間・社会系部門 林 憲吾 研究室 修士課程1年 樺山 菜々)
- 災害対策の知と型の発信:DMTCの挑戦と国際展開
(人間・社会系部門 准教授 沼田 宗純)

「東大駒場リサーチキャンパス公開2025」の開催

5月30日(金)・31日(土)の両日、東大駒場リサーチキャンパス公開2025が開催されました。今年度は「ここで、未来に挑む」をキャッチコピーに掲げ、本所と本学 先端科学技術研究センターの各研究室による研究室公開や講演会など、数多くのイベントが実施されました。

あいにく両日も雨天となりましたが、その一方、来場者数だけを見れば2日間で7,622人、前年とはほぼ同じ規模でした。特に、2日目は、駒場リサーチキャンパス公開という名称での開催となった2007年以来、1日あたり過去最多(5,201人)の来場者数を記録しました。

公開初日には、本所と先端科学技術研究センターの合同によるオープニングセレモニーが行われました。今年のテーマは「人と調和し社会をリードする半導体」として、両所長による挨拶の後、本所 小林 正治 准教授が「未来社会を切り拓く先端半導体」と題した講演を

行い、続いて先端科学技術研究センター 松久 直司 准教授(本所兼務)が「人と調和する柔らかいエレクトロニクス」と題した講演を行い、それぞれの研究分野を解説するとともに最先端の研究の展望を紹介しました。このイベントはオンラインでも同時配信され、ユニバーシティ広場に設置された大型ビジョンでの上映を含めて多くの方に参加いただきました。

今年の公開では、本所だけでも115件の研究室・研究センター等による研究紹介・展示、27件のイベントが開催され、幅広い年代・職業の来場者で賑わいました。新イベントとしては、地下アトリウムにおいて本所研究室と関係の深い企業23社にブース出展いただく「企業と出会うキャンパスストリート」が実施され、本所の多彩な産学連携活動のその先の展開について、多くの来場者が出展企業との対話を通して実感する機会となりました。

(総務課広報チーム)



本所 年吉 洋 所長、
先端科学技術研究センター 杉山 正和 所長による開会挨拶



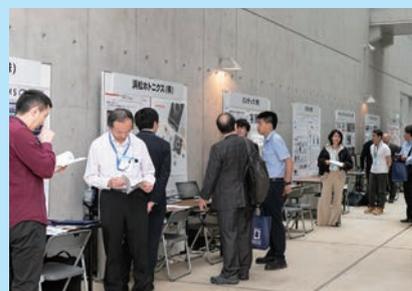
小林准教授、松久准教授による講演



理科教室の様子(株式会社ニコン)



ユニバーシティ広場に設置した大型ビジョン



企業と出会うキャンパスストリート
(23社によるブース展示)



研究室見学

「東大駒場リサーチキャンパス公開2025」広報室企画報告

5月30日（金）および31日（土）に開催した東大駒場リサーチキャンパス公開2025において、本所 広報室では、「願いと実りのイチョウ～みんなの願いに、研究者が答えます～」および「研究者が描く『もしかする未来』に、あなたから一言！」を企画し、C棟1階ピロティにて実施した。

「願いと実りのイチョウ～みんなの願いに、研究者が答えます～」は、本所の各研究室が描く「もしかする未来」像を紹介し、各研究室への来訪誘致を目的とした企画である。本年度は、本所 年吉 洋 所長の呼びかけのもと全147研究室に対しアンケートを行い、回答があった71研究室の「もしかする未来」像を印刷したカードを、本所 川口 健一 研究室が設計したテンセグリティ構造のオブジェに展示した。参加者にはカードを鑑賞していただくとともに、研究者にかなえてほしい未来像や願いをイチョウ型のメモ用紙に記載いただき、112の願いがオブジェを彩った。また、昨年同様、願いと実りのイチョウ展示が始まって7年の間に来場者から寄せられた願いから27の願いを選び、これに対して本年のキャンパス公開新企画である「生研ピックアップ企画」にアサインされた17名の教員から寄せられたコメントを展示した。「蚊に絶対さされなくなる虫よけスプレーがほしい」に対して「都市全体で蚊に対峙」（本所 川添 善行 准教授）や、「巨大地震にも耐えられる家がほしい」に対して「注目すべきは、家を支える地盤の強化」

（本所 清田 隆 教授）など、好奇心を掻き立てるコメントに、雨が吹き込み強風に煽られる展示スペースにも関わらず来訪者が足を止め、じっくり読みこんでいた。

「研究者が描く『もしかする未来』に、あなたから一言！」は、本所のウェブマガジン「もしかする未来 Case #UTokyo-IIS (<https://magazine.iis.u-tokyo.ac.jp/>)」の周知を目的とした企画である。本ウェブマガジンは、本所が提起するさまざまな「もしかする未来」像を社会に紹介し、期待や不安、自由コメントを閲覧者から投稿いただくことで、本所と社会との対話の場となることを目指している。本年度は「生研ピックアップ企画」と連動した上記の願いとコメント19件をウェブマガジンに公開するとともに、当日の広報室企画ブースにも記事を掲示した。ウェブマガジンの該当記事につながるQRコードをつけ、参加者にアクセスを促し、投票やコメントをしていただいた方に本所オリジナルクリアファイルを贈呈した。「ピタッと装着、ウェアラブル診断」（本所 松久 直司 准教授）の記事に対して「手のひらで文字表示ができれば筆談している時間も少なくすみそう」など、合計55件のコメントが寄せられた。

テンセグリティ構造のオブジェの組み立てには、川口研究室や事務部の皆さまなど多くの方にご協力頂きました。その他、本企画にご協力いただきました皆さまに心から感謝を申し上げます。

（広報室）



願いと実りのイチョウに見入る来場者



教員からの好奇心を掻き立てるコメントに見入る来場者



「東大駒場リサーチキャンパス公開2025」 次世代育成オフィス (ONG) 活動報告

5月30日(金)、31日(土)に開催された「東大駒場リサーチキャンパス公開2025」において、本所次世代育成オフィス(ONG)は、所内ボランティアグループであるSNG(Scientists for the Next Generation!)と協同で、中学生・高校生のためのプログラム「未来の科学者のための駒場リサーチキャンパス公開」及び、連携企業・団体による体験型ブースの出展を行った。さらに、小学生～高校生向けの「理科教室」にも協力し、精力的に活動を展開した。

「未来の科学者のための駒場リサーチキャンパス公開」では、全国から、過去最高となる48校約2,200名が参加し、加えて個人や少人数グループでの当日参加も多くみられ、大盛況となった。参加者は「見学おすすめマップ」を活用しながら自由に見学し、体験型学習にも積極的に参加していた。

ONGとの連携企業・団体による体験型ブース「“STEAM”を体験してみよう」では、JX金属株式会社(JX金属)、東京地下鉄株式会社(東京メトロ)、日本航空株式会社(JAL)、日本精工株式会社(NSK)の連携企業4社と、一般社団法人日本トライボロジー学会の協力を得て、地下アトリウムにてブース展示を行った。工作や模型などの体験型展示が多数用意され、小さな子どもから大人まで述べ3,500人が訪れ、大賑わいとなった。「ベアリングってなんだろう?!(NSK)」では、ベアリングの組み立て体験を通じて、部品の役割やそれが日常生活でどのように使われているかを学び、科学の面白さを実感できる内容となった。また、「JAL折り紙ヒコーキ教室」では、作った飛行機が100点の的を通過するたびに歓声があがり、「東京メトロペーパーク

ラフト体験会」では、紙の電車を作りながら鉄道の仕事について学び、将来の職業を考える機会に繋がった。理科教室「銅の銅になってるの?(JX金属)」では、電気・電子製品に欠かせない金属「銅」への理解を深める化学実験を通じて、科学の面白さに触れる機会となった。日本トライボロジー学会、埼玉工業大学長谷 亜蘭 研究室と協力した「摩擦の科学×謎解きトライボロジーアドベンチャー〜でこぼこ大魔王を倒して世界を救え!〜」では、ペーパークラフトを使って摩擦の科学を楽しく学ぶことができた。

参加者のアンケートからは、「想像していた以上の最先端技術に触れることができ、文系の私がワクワクした」「進路を変更し、科学技術の発展について携わってみたいと感じるほどだった」「科学技術や産業界は自分とは遠い世界だと思っていたが、実際はとても身近なものであることに驚き、勉強になった」等の感想が寄せられた。また、参加生徒及び引率教員の約80%以上が「以前より科学技術に関心を持つようになった」と回答しており、全体を通じて、参加者は学ぶことの楽しさと喜びを実感し、非常に充実した時間を過ごしたとの声が多く寄せられた。今後もONGでは、次世代の研究者たちが学びを深め、探究心を育てながら成長することをめざし、さらなる教育プログラムの充実に努めていく所存である。

最後に、ご協力いただいた各研究室の皆さま、連携企業・団体の皆さま、SNG関係者の皆さまに心より厚く感謝と御礼を申し上げます。

(次世代育成オフィス 室長・教授 大島 まり、
学術専門職員 上田 史恵)



体験型ブース (東京メトロ)



体験型ブース (NSK)



体験型ブース (JAL)



理科教室の様子 (JX 金属)



自由見学 (竹内 昌治 研究室)



自由見学 (水谷 司 研究室)



自由見学 (小倉 賢 研究室)



理科教室の様子
(日本トライボロジー学会)

2025年度 生研同窓会総会・パーティーを開催

5月31日(土)、2025年度 生研同窓会総会を本所 An棟コンベンションホール、パーティーを An棟レストランアーペで開催しました。

総会は、新野 俊樹 幹事(本所 教授)が司会を担当し、浦 環 副会長(本学 名誉教授)の開会挨拶に続き、吉川 暢宏 幹事(本所 教授)から、2024年度事業報告、2025年度活動計画の提案があり、宮崎 敏朗 幹事(本所 事務部長)から、2024年度収支報告、2025年度予算案の説明があり、議案は全て承認されました。続いて、目黒 公郎 幹事(本所 教授)から、海外支部(タイ)の活動に関しての報告がありました。最後に、魚本 健人 会長(本学 名誉教授)の閉会挨拶があり、終了しました。

An棟ホワイエでの記念撮影後に開催されたパー

ティーは、金 範峻 幹事(本所 教授)の司会進行により、魚本会長、年吉 洋 幹事(本所 所長・教授)の挨拶に続き、江口 純弘 会員の乾杯で始まりました。本学 藤井 輝夫 総長の参加もあり、各所で会話が盛り上がる様子が見られました。藤井総長からの挨拶、本所 腰原 幹雄 教授と本所 林 憲吾 准教授による生研パビリオン※に関するプレゼンテーションや新入会員の挨拶を経て、星野 富夫 会員の閉会挨拶で、盛会裏に終了しました。

※本所の前身にあたる旧第二工学部の木造校舎の保存部材を活用して、今後、本所の最新研究を体験できる建物にする構想

(生研同窓会事務局)



浦副会長による開会挨拶、吉川幹事による事業報告・活動計画、宮崎幹事による収支報告・予算説明、目黒幹事による活動報告、魚本会長による閉会挨拶



年吉所長によるパーティーでの開会挨拶、江口会員による乾杯、星野会員による閉会挨拶、藤井総長による挨拶



パーティーでのプレゼンの様子 左から林准教授、腰原教授



記念集合写真

増沢 隆久 名誉教授が令和7年春叙勲 瑞宝中綬章を受章

本学 名誉教授 増沢 隆久 先生が令和7年春叙勲 瑞宝中綬章を受章されました。先生は工学系研究科 精密機械工学専攻を修了後、同年本所に講師として着任されました。それから半世紀に渡り、加工、特に放電加工の研究に従事され、高精度微細加工、難加工材の加工に多くの業績を残されました。ご業績は枚挙に暇がありませんが、微細加工を可能としたマイクロ放電加工、高精度の連続加工を可能としたワイヤー放電研削が挙げられます。これらの成果に対して、文部科学大臣賞をはじめ、多くの学会賞を受賞されています。今日、我々が、ここ一番、というときに放電加工を頼ることができるのは先生のお蔭だと改めて気づかされます。増沢先生は電気加工学会会長をはじめ、多くの学会活動に携われ、分野の発展と人材育成に多大な貢献をされました。先生の文献リストを拝見するに、私どもに馴染みの深い、当時は若手の多くの先生が共著者としてお名前を連ねて居られます。

幸い、先生と分野に近いこともあり、修士号、博士

号の審査会に同席させていただく機会を多く頂きました。審査会でのお言葉は、厳しくも、努力と可能性を称えるものでした。今でも先生のお言葉が思い出されます。“これは修士論文ではありません”、“何故試さないのですか”、“これは素晴らしい、何故ならば、欠点を洗い出して更に発展させている”。近年、これほど清々しい審査会は稀となりました。

先生は本所をご退職後もご研究や装置の実用化を続けておられます。ご作品に、例えば、放電加工機“タートル1号”、最近では、医師と患者の会話を助ける“増沢式糸電話”があります。論文や学会発表リストも更新が続いています。増沢先生には、様々な可能性を認めるお心の広さと、学問に対峙する姿勢を教えてくださいました。この度のご受章、本所のメンバーの一人として大変誇りに思っております。ここに深謝し、こころよりお祝い申し上げます。

(機械・生体系部門 教授 川勝 英樹)



増沢 隆久 名誉教授のコメント

名誉ある叙勲に浴し光栄です。私の研究、教育に関わる業績のほとんどは生研に在籍した間のものです。即ち此度の受章は生研のおかげです。心から感謝申し上げます。一方、私は生研にどれだけ貢献したかと考えると忸怩たるものがあります。それでも、LIMMS、CIRMMに関わり生研の国際化に多少は寄与できたかもしれません。また、工場長として試作工場の設備充実に一役買ったことなどを想起し自らを慰めております。生研の更なる発展と、今後も受章者が輩出することを祈念いたします。

羽田野 直道 教授、菅野 裕介 准教授が文部科学大臣表彰を受賞

下記の通り本所の2名の教員が令和7年度 科学技術分野の文部科学大臣表彰を受賞しました。

<科学技術賞 研究部門>

氏名	所属・役職	業績名
羽田野 直道	東京大学 生産技術研究所 教授	非エルミート量子力学の研究

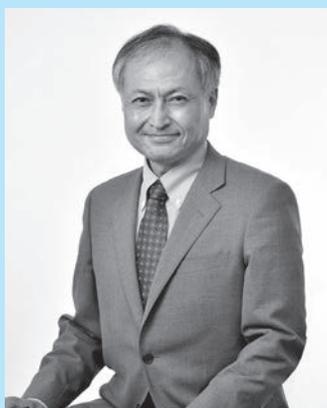
<科学技術賞 理解増進部門>

氏名	所属・役職	業績名
落合 陽一	筑波大学デジタルネイチャー開発研究センター センター長、 図書館情報メディア系 准教授 / (一社) xDiversity 代表理事	AI 技術の社会実装による身体 / 認知的多様性の理解増進
遠藤 謙	(株) ソニーコンピュータサイエンス研究所 上級研究員 / (一社) xDiversity 理事	
菅野 裕介	東京大学 生産技術研究所 准教授 / (一社) xDiversity 理事	
本多 達也	富士通 (株) コンバージングテクノロジー研究所 Antenna プロジェクトリーダー / (一社) xDiversity 理事	

受賞内容と本所の受賞者および受賞コメントは以下の通りです。

<科学技術賞 研究部門>

羽田野 直道 教授
非エルミート量子力学の研究



○研究内容：

量子力学では主にエルミート演算子が活躍します。固有値が全て実数なのが現実と符合しているからです。私はそれを敢えて非エルミートに拡張した理論を提案しました。そこでは複素数の固有値が大きな物理的役割を果たします。ちょうど実数を複素数に拡張すると計算に便利だったり新しい発見があったりするのと同じです。私が共同研究者 David Nelson 氏と提案したモデルは今では Hatano-Nelson モデルと呼ばれ、最も単純かつ非自明な非エルミート量子力学モデルと見なされています。

○受賞コメント：

このたび評価された業績は、実はほとんど 30 年前に私が提案した理論です。提案した最初の頃こそ少しちやほやされましたが、その後、長い間、不遇の時期がありました。幸運にも数年前から再評価が始まり、Hatano-Nelson モデルが漸く非エルミート量子力学の標準的なモデルとして認められるに至りました。最新の成果ではない業績を認めて表彰して頂けたことをとても幸運に感じています。様々な形で応援して頂いた方々から心からお礼申し上げます。

<科学技術賞 科学技術振興部門>

菅野 裕介 准教授
AI 技術の社会実装による身体 / 認知的多様性の理解増進



○研究内容：

本活動は、多様な身体・認知特性を持つ当事者・研究者・支援者が協働して支援技術を開発し、その過程を公開して改良する仕組みを構築してきました。私たちの研究室では、体験型イベントを通じて、一般の参加者が機械学習システムを直接操作し技術理解を深める試みを行ってきました。このように当事者視点を取り入れた開発プロセスにより、単なる補完ではなく、新たな可能性を拓くイノベーションが生まれ、共生社会の基盤強化に貢献することを目指しています。

○受賞コメント：

2017 年度に採択された JST CREST の研究課題として始まった本活動が、このような形でご評価いただけたことを大変光栄に思います。この 8 年間で AI や情報技術は想像を超える進化を遂げましたが、技術の多様性や包摂性をめぐる議論は、むしろ大規模 AI 時代においてこそ一層重要であると感じています。本活動を通じて、私自身も多くの学びを得ることができました。多くの時間を共に過ごしてきた仲間である落合さん、遠藤さん、本多さんをはじめ、ご協力くださったすべての皆さまに心より感謝申し上げます。



左から遠藤上級研究員、菅野准教授、落合准教授、本多プロジェクトリーダー

本所 岡部 徹 教授がTMS 2025 LEADERSHIP AWARDを受賞

3月26日(水)、米国ネバダ州ラスベガスで開催されましたTMS (The Minerals, Metals & Materials Society) 2025, 154th Annual Meeting & Exhibition (北米最大の資源・材料学会)において、本所の岡部 徹 教授が「TMS 2025 LEADERSHIP AWARD」を受賞されました。本賞は、金属工学および材料科学の分野で国際的に卓越したリーダーシップを発揮した個人を表彰するものです。

授賞式は、ラスベガスらしい華やかな雰囲気にも包まれ、盛大に執り行われました。岡部教授はTMS会長のSrinivas Chada氏から黒大理石 (Black Onyx) 製の大型の賞牌を授与されました。受賞理由としては、非鉄金属の新しい製錬・リサイクル技術の開発に関連する優れた研究成果と価値創造、教育および各種マネジメントにおける先見性と模範的なリーダーシップ、さらにメディアを通じた公共的なアウトリーチ活動が挙げられました。

このたびの受賞に際し、岡部教授は「As a Japanese person, I am truly grateful for the recognition of my leadership at a major academic conference in North America.」と述べられました。米国の主要な学会では依然として北米出身の研究者が中心を占めていますが、そ

うした中で岡部教授が本賞を受賞されたことは、研究成果の卓越性に加え、国際学会等での積極的な交流や他の研究者への細やかな配慮を通じて築き上げてこられた、強固な国際ネットワークと信頼関係の賜物であったものと考えられます。岡部教授は、LEADERSHIP AWARDにふさわしい金属工学分野の牽引者として、海外の研究者の間でも強い存在感を示されています。

これまで岡部教授は、広い視野のもとレアメタルの普及に多角的に取り組み、アカデミアの立場から新たな産官学連携活動や国際ワークショップを数多く主宰されてきました。レアメタル研究の国際的な発信、さらには一般社会への情報提供においても、フロンティアを切り開き、世界をリードしてこられました。今回の受賞は、こうしたレアメタルの製錬やリサイクル分野における研究、教育、啓発活動の、世界規模での幅広い功績が高く評価された結果であるといえるでしょう。

岡部教授のご受賞を心よりお祝い申し上げますとともに、今後ますますのご健勝とご活躍をお祈り申し上げます。

(持続型材料エネルギーインテグレーション研究センター
講師 大内 隆成)



賞牌を授与される岡部教授



壇上でのフォトセッション

授賞式会場の様子



授与された黒大理石 (Black Onyx) 製の大型の賞牌

生研海外拠点RNUS (Regional Network Office for Urban Safety) タイでRNUSセミナー開催

2024年11月29日(金)に第3回、2025年3月25日(火)に第4回、RNUSセミナーをハイブリッドで開催した。RNUSセミナーは、本所のタイ王国拠点であるアジア工科大学院AITのRNUSオフィスが、One Health, One Worldをテーマに定期的に開催している。

第3回は、本所の大原 美保 教授が「How can online environment enhance flood disaster risk reduction?」と題して、フィリピンの気候変動下での持続的な地域経済発展への政策立案のためのハイブリッド型水災害リスク評価の活用について話題提供を行った。次に、Rangsit University, Climate Change and Disaster Center (タイ王国) 所長のSeree Supratid准教授が「Development of regional hazard platform interactively through web application」と題して、地域のハザード評価と管理のためのインタラクティブなウェブGISアプリケーションやオープンソースソフトウェアの利用について話題提供を行った。セミナーには、タイや日本を中心にバングラデシュやフィリピンなどから55名が参加し、活発な質疑応答が行われた。

第4回は、King Mongkut's Institute of Technology LadkrabangのPornchai Supnithi教授が「Linear Modeling of PM2.5 from AERONET Ground and Satellite Data in Thailand」と題して、AERONET (地上設置型エアロゾル観測ネットワーク)、リモートセンシングのセンサであるMODIS (Moderate Resolution Imaging Spectroradiometer、米国航空宇宙局 (NASA) によって開発された可視から熱赤外を計測するセンサで、2001年以来生研でもデータを受信している) やMISR (Multi-angle Imaging SpectroRadiometer、NASAジェット推進研究所JPLによって開発されたセンサで、前方から後方まで9つの角度から立体視できる) などを使った衛星観測、地形、土地利用、気象条件などの補助変数をモデルに組み込んでタイ国内のPM2.5濃度を推定した結果について話題提供を行った。60名の参加者からは多くの質問が寄せられ、講演者との間で有意義な議論が展開された。

(人間・社会系部門 教授 竹内 渉)



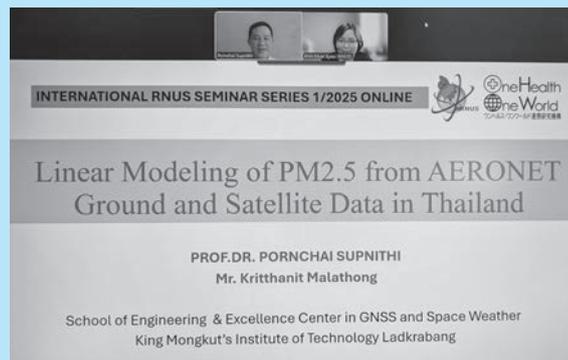
第3回の大原教授による講演の様子



第3回のSupratid 所長による講演の様子



第3回の質疑応答に回答する関係者



第4回のSupnithi 教授による講演の様子

第32回 生研フォーラム 「宇宙からの地球環境・災害のモニタリングとリスク評価」

3月6日(木)と7日(金)に、第32回生研フォーラム「宇宙からの地球環境・災害のモニタリングとリスク評価」が、本所S棟プレゼンテーションルームでハイブリッド開催された。年度末のご多忙中にもかかわらず、多くの方々にご出席いただきましたことを感謝し、ここに厚く御礼申し上げます。

今回は、日本、バングラデシュ、フィリピン、インド、スイス、中国、インドネシアから50名ほどが参加し、合計36件の研究発表が質疑も含めて英語で行われた。インドネシア・リモートセンシング学会MAPINのAgustan Agustan会長、インドネシア大学のMasita Dwi Mandini Manessa助教が来日して会場に参加していただき、顔を合わせての議論のありがたさも同時に実感した。

研究発表のおよそ6割が学生によるものであったが、いずれもハイレベルな研究であり、大変聞き応えのある内容であったと思う。本所 次世代育成オフィスが主催している今年度のUROP (Undergraduate Research

Oppotunity Program、学部学生に実験や実習を通して研究に参加することで、先端研究に触れる機会を提供するプログラム)に参加した本学 教養学部文科二類1年生の安在 遥さんは、2024年に能登半島で発生した大規模洪水を例に「衛星データと大規模言語モデルを活用した防災情報システムの構築」と題し、堂々と英語で研究発表と質疑応答を行った。

研究発表のおよそ3割が衛星搭載の合成開口レーダー(Synthetic Aperture Radar)に関連するものであったが、ここ数年の防災に関連する宇宙データ利用が飛躍的に推進していることの表れであるものと承知している。数年前から英語開催としたところ、国内参加者は減ってしまうと思ったが、日本人学生の参加者も多く、英語による発表は大変立派であり、北海道大学、室蘭工業大学、本学、千葉大学、金沢工業大学など、国内の留学生を中心に新規に参加するメンバーも増えており、引き続き開催することの意義を感じている。

(人間・社会系部門 教授 竹内 渉)



参加者の集合写真



Agustan 会長による研究発表の様子



セッション中の様子



懇親会の様子

第2回HPC産業応用拡大プロジェクトシンポジウム 開催

3月13日(木)に、文部科学省のプロジェクトである「『富岳』成果創出加速プログラム」「AIの活用によるHPCの産業応用の飛躍的な拡大と次世代計算基盤の構築」*¹の成果を報告する第2回HPC産業応用拡大プロジェクトシンポジウムを、本所 大会議室、および、Webex Webinarsによるハイブリッド形式にて開催した。

今回のシンポジウムでは、本所 長谷川 洋介 教授によるプロジェクトの概要紹介をはじめ、産業界のユーザを含む13名の方に講演いただき、プロジェクトの最新の成果を報告し、それを踏まえて、HPCとAIを活用したものづくりシミュレーションについて議論した。また、招待講演として、「『富岳NEXT』プロジェクトの始動：次世代計算基盤の構築に向けて」と題して、次世代システムの開発・整備を目的とした「富岳NEXT」プロジェクト等について、理化学研究所計算科学研究センター 近藤 正章 チームリーダーに講演いただいた。

最後のパネルディスカッションでは、産業界の方々に登壇者に迎え、これらの講演を踏まえて、「ポスト『富岳』時代のものづくりシミュレーション」と題し、HPCの活用の問題点やAI・データ科学を活用したものづくりシミュレーション技術の研究開発の現状について共有し、ものづくり分野における、ポスト「富岳」時代に向けた、今後のHPCに対する期待についての意見交換を行った。

HPCとAIを活用したものづくりシミュレーションの今後のものづくりへの貢献について議論することができた本シンポジウムには、民間企業93社からの参加者を含め、215名(含、現地参加39名)の方々にご参加いただき、盛会裏に終了した。

*¹: HPC (High Performance Computing)

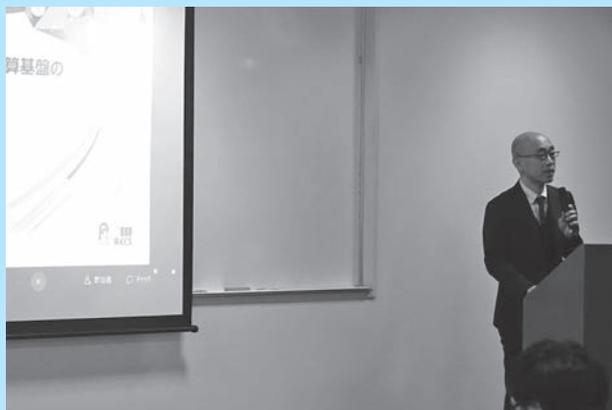
(革新的シミュレーション研究センター
教授 長谷川 洋介)



長谷川教授による講演の様子



質疑応答の様子



理化学研究所計算科学研究センター 近藤チームリーダーによる招待講演の様子



パネルディスカッションの様子

第115回レアメタル研究会 「バッテリーメタルの現状と将来」の開催

3月21日（金）に、本所 コンベンションホールにおいて、レアメタル研究会（第115回）が「バッテリーメタルの現状と将来」と題してハイブリッド形式で開催されました。

本所 岡部 徹 教授からの開会挨拶の後、株式会社テクノバ O Bの井田 和彦 氏から「レアメタルフリーあるいはレアメタル使用を最小化する電池の動向と展望」、岡部教授から「ウクライナのレアアースについて」、本所 黒川 晴正 特任教授から「ニッケル資源、精錬、リサイクル、BEV用途と需給」と題して、それぞれ講演が行われました。続いて、東北大学 中村 崇 名誉教授（福岡県リサイクル総合事業化センター センター長、本所 シニア研究員）から、福岡県が日本初の

EV電池循環市場形成に向けた地域団体として設立した、「グリーンEVバッテリーネットワーク福岡（GBNet福岡）」の紹介があり、その後、講演者を交えて総合討論が行われました。

非鉄金属の関連企業を中心に産官学から、会場に約70名、オンラインから約140名の参加があり、活発な議論がなされました。

その後、研究交流会・意見交換会が開催され、バッテリーメタルの今後の課題について議論がなされ、大変盛況な会合となりました。

（持続型材料エネルギーインテグレーション研究センター
講師 大内 隆成）



開会の挨拶を行う岡部教授



講演を行う井田氏



講演を行う黒川特任教授



話題提供をする中村名誉教授



講演配信チーム



講演者の集合写真



研究交流会・意見交換会で挨拶を行う 本所 鳴海 大翔 講師
(当時 京都大学工学研究科材料工学専攻 助教)



講演会後の研究交流会・意見交換会の様子

UTokyo-IIS Research Collaboration Initiative Award 2024 授賞式を開催

3月21日（金）、2024年度のUTokyo-IIS Research Collaboration Initiative Awardの授賞式が執り行われました。本アワードは、産業界との連携研究、地域社会との協働や社会実装、国際的な共同研究や交流、社会や他の学術機関との接点を持つ基礎研究、さらには地球規模の課題解決に資する研究など、「生研らしさ」が発揮された多様な連携型研究に積極的に取り組み、成果を挙げた大学院生を顕彰・奨励する目的で、2021年度に創設されました。

2024年度は、書類選考と面接審査を経て、最優秀賞2名、優秀賞5名、奨励賞2名の計9名が受賞しました。

※以下姓ABC順

—最優秀賞—

服部 充宏

(人間・社会系部門 大口 敬 研究室 博士課程3年)
「雨天時の高速道路事故対策のための安全リスク評価」

山岸 愛

(基礎系部門 羽田野 直道 研究室 博士課程2年)
「国際オンラインスクールの主催と国際研究交流の展開」

—優秀賞—

Shenyi Bai (白 申逸)

(機械・生体系部門 北澤 大輔 研究室 博士課程1年)
「洋体式洋上風力発電と沖合養殖の併設システムに関する研究」

Jiali Chen (陳 佳麗)

(物質・環境系部門 杉原 加織 研究室 博士課程2年)
「Machine learning-enhanced drug screening platform」

Ariane Melissa Schwitter

(物質・環境系部門 杉原 加織 研究室 博士課程2年)
「LL-37 Teams Up with Human Defensins: Unveiling Heterooligomer Formation」

富井 治弥

(人間・社会系部門 林 憲吾 研究室 修士課程2年)
「3.11を凍結保存する民家の継承と交流拠点整備」

Mingfang Zhang (張 銘方)

(情報・エレクトロニクス系部門 佐藤 洋一 研究室 博士課程2年)
「Multi-modal Egocentric Intelligence in 3D Scenes」

—奨励賞—

Xiangxiang Chen (陳 翔翔)

(機械・生体系部門 Muhammad Aziz研究室 博士課程3年)
「Advanced Analytical Tools for Driving Efficient Solid Fuel Utilization in Sustainable Energy Systems」

東野 真人

(人間・社会系部門 川添 善行 研究室 修士課程2年)
「群馬県大泉町における日系ブラジル人の定住化と都市建築空間に関する基礎研究」

授賞式は、本所 所長室にて開催され、国際・産学連携室 合田 和生 次長・教授の司会のもと、同室 岡部 洋二 室長・教授の挨拶に続いて、同室 坂本 慎一 室員・教授による審査報告がありました。その後、本所 年吉 洋 所長より、受賞者に賞状と盾を授与され、祝辞を述べられました。続く各受賞者によるスピーチでは、それぞれが自身の研究活動で得た知見や今後の抱負等について、語りました。

このアワードが、本所で学ぶ学生にとって、広範な学術的ネットワークの形成や社会との接点をより広く持つ契機となり、視野を広げた研究の深化とさらなる飛躍への励みとなることを願います。

(国際・産学連携室)



最優秀賞受賞者との集合写真
前列左より、服部さん、山岸さん
後列左より、合田教授、年吉所長、岡部教授、坂本教授



優秀賞受賞者との集合写真
前列左より、Bai さん、Chen さん、Schwitter さん、富井さん、Zhang さん



奨励賞受賞者との集合写真
前列左より、東野さん、Chen さん

第9回 東京大学ーケンブリッジ大学合同シンポジウム

ケンブリッジ大学と本学は、2015年3月に戦略的パートナーシップ協定を締結して以来、合同シンポジウムを交互に開催してきており、3月27日(木)、28日(金)には、第9回となる「東京大学ーケンブリッジ大学合同シンポジウム (The Ninth Cambridge-UTokyo Joint Symposium - Navigating the Future and Reflecting on the Past -)」を本学 本郷キャンパス 福武ホールにて開催した。パートナーシップ締結当初から連携部局として支援してきた本所も、様々な形でシンポジウムに協力している。

27日は、“Global Warming and Sustainability”を主題とした様々なセッションが開催された。“Working Towards Collaborative Impact”にフォーカスしたラウンドテーブル・ディスカッションでは、本所 年吉 洋 所長が登壇し、本所 LIMMS (Laboratory for Integrated Micromechatronic Systems) の活動について詳しく紹介した。本所とフランス国立科学研究センター(CNRS)の30年に渡る取り組みとそのインパクトについては、ケンブリッジ大学の参加者からも驚きの声があがっていた。また、パラレルセッション “Translating Engineering Biology from the Bench to the Bioeconomy”では、本所 坪山 幸太郎 講師が登壇して自らの研究内容を紹介し、両大学の研究者との議論を深めている。当日夕方からのWelcome Receptionでは本学 藤井 輝夫 総長やケンブリッジ大学 Vice-Chancellor の Deborah Prentice 教授も加わり、両大学の教職員が入り混じって懇親を深めた。

28日には、戦略的パートナーシップに参加する様々な部局でワークショップが開催された。本所では松久 直司 准教授が、“Materials, devices, and systems for seamless human-computer interactions”に関するワークショップをAn棟コンベンションホールで開催した。ケンブリッジ大学からはGeorge Malliaras教授、Oren Scherman教授、飯田 史也 教授が登壇し、本学からは工学系研究科の染谷 隆夫 教授、太田 順教授、松久准教授が登壇するなど錚々たるメンバーを集め、また、学生のポスタープレゼンテーションも開催するなど非常に盛況な会となった。加えて、本所の梶原 優介 教授と工学系研究科の木下 裕介 准教授、およびケンブリッジ大学IfM (Institute for Manufacturing) のRobert Phaal博士が“Engineering the future by technology innovation”と題したオンラインワークショップを共同開催し、日本、欧州、南米など様々な国から40名以上の参加者を集めて技術革新の起こし方などについてグローバルな視点で議論を行った。

第10回の合同シンポジウムは、来年ケンブリッジ大学にて開催予定である。興味のある方はぜひ東京大学ーケンブリッジ大学の戦略的パートナーシップのウェブサイトをチェックしていただきたい (https://sp.t.u-tokyo.ac.jp/UTokyo_Cam/)。

(機械・生体系部門 教授 梶原 優介、
国際・産学連携室 高度学術員 有馬 みき)



全体集合写真



坪山講師(右から3人目)と
パラレルセッション登壇者



LIMMS の紹介を行う年吉所長



ラウンドテーブル・ディスカッションの様子
(左: 左から松久准教授、年吉所長) (中: 左から2人目松久准教授) (右: 左から梶原教授)

「大学人のスタートアップ講座 vol.3」を開催

3月28日（金）、本所主催「大学人のスタートアップ講座 vol.3」がオンラインで開催されました。本講座は、研究成果をスタートアップという手段で社会実装する意義や課題をテーマに、2022年度より実施している国際・産学連携室のシリーズ企画です。

当日は、本所 年吉 洋 所長による開会挨拶で始まり、3名による講演が行われました。

最初に、株式会社オキサイド 古川 保典 代表取締役会長より、国研発ベンチャーの創業から上場に至るまでの歩みについてご講演いただきました。その中で、「自分たちにしかできないことに挑み、世界に必要とされる存在になる」「研究者が社会を変える主語になれる」といった言葉を通じて、研究者が専門性を活かしながら社会課題の解決に主体的に関与することについての示唆がありました。また、海外での研究経験による視野の広がりや、国研に在籍しながらの起業といった、キャリアの選択肢に関する具体的な経験も共有されました。

次に、SAKIYA株式会社 技術顧問・共同創業者である本所 山口 大翔 助教より、自身のスタートアップ立ち上げと研究活動の両立に関するご経験が紹介されました。アカデミア発の先進技術がいかに社会のニーズと結びつき、価値を生み出すか、「研究はシーズ、スタートアップはニーズから始まる」との考えに基づく視点

が示されました。また、創業初期のチームづくり、事業化に向けた試行錯誤など、研究者が社会と接点を持ちながら挑戦を進める実践的な過程が共有されました。

最後に、本学 産学協創推進本部スタートアップ推進部 菅原 武人 ディレクターより、大学におけるスタートアップ支援の制度的・実務的な側面について講演がありました。研究者が起業を検討する際に直面しやすい課題として、利益相反への配慮、知的財産の取扱い、学内リソースの活用、教職員の兼業・兼職に関する制度などが紹介され、学内の支援体制や具体的な相談先の情報が共有されました。制度や規定を活用することで研究の可能性を広げるという視点が提示され、起業に向けた実践的な知見が示されました。

当日の司会は、本所 国際・産学連携室 大石 岳史 室員・准教授が務め、質疑応答では同室 合田 和生 次長・教授も進行に加わり、研究・技術・制度それぞれの立場から多角的な議論が展開されました。

本講座は、アカデミアにいる研究者がスタートアップを通じて社会とつながるための現場の声に直接触れ、実践的な気づきを得られる貴重な機会となりました。

ご講演いただいた古川代表取締役会長、山口助教、菅原ディレクターに、心より御礼申し上げます。

（国際・産学連携室 高度学術員 入江 由里子）



開会挨拶をする年吉所長



講演を行う古川代表取締役会長



講演を行う山口助教



講演を行う菅原ディレクター



司会を行う大石准教授



質疑応答での進行を行う合田教授

第13回海中海底工学フォーラム・ZERO開催

4月11日(金)、第13回海中海底工学フォーラム・ZERO (<https://seasat.iis.u-tokyo.ac.jp/UTforum/>)が、本所コンベンションホールで開催された。本フォーラムは、理学と工学の水面下の接点を探るべく、年に2回、本所(春)と本学 大気海洋研究所(秋)にて、海中海底工学に関する最新の動向を取り上げて開催されている。今回は、現地参加を基本とし、オンラインは原則遠方からの参加者に限り、158名が現地参加、99名がオンライン参加した。今後は、本所では現地開催、大気海洋研究所ではハイブリッド開催を基本とする方針である。

本所 巻 俊宏 准教授(幹事)による開会の挨拶の後、フォーラム前幹事である大気海洋研究所 道田 豊 特任教授が、今年1月に急逝された同所 徳山 英一 名誉教授との思い出を語り、皆で黙祷を捧げた。徳山先生には、フォーラム前々幹事として大いにご活躍いただいた。謹んでご冥福を祈りたい。

続いて8件の講演が行われた。前半の3件はサイエンス。東北大学 別所-上原 康人 助教による「深海の暗黒に溢れる生物の光-生態と進化の理解に向けて」は、太陽光の届かない暗い海中では、76%もの生物が発光するという事を、なまこなどの仲間を例に解説された。また、大気海洋研究所 細野 将汰 博士課程学生による「[誕生日]で決定するヤリイカの雄の繁殖戦略」は、早生まれと遅生まれのヤリイカでは身体大きさが異なり、遅生まれの雄は、体が小さく、競争はせずにペアの間に割り込むように繁殖することが報告された。寿命の短い生物が獲得した子孫を残すための戦略に感嘆した。広島大学 秋澤 紀克 准教授による「しんかいで見つけたすごい石」は、日本海溝付近の深海6500mで発見した大量のマントルのカケラの解析から、高圧力

の環境で生成される石榴石(ガーネット)が含まれることが分かり、発見されたマントルは世界最深部由来であると判明した、と報告され、新進気鋭の研究者が会場を盛り上げた。

サイエンスの後は工学。(独)エネルギー・金属鉱物資源機構 金属海洋資源部 栗原 健一 部長から本所の自律型海中ロボット(AUV)による7年間にわたるコバルトリッチクラスト調査についてのサマリー。続いて、クロスアポイント兼務のため、英国滞在が多く、今回、久しぶりのリアル登場となった本所 ソートン ブレア 准教授によるカメラ搭載のAUVを用い、ケーブルの発見・追跡・定期点検を行う技術、海上・港湾・航空技術研究所 海上技術安全研究所 篠野 雅彦 グループ長によるAUVと着底機(ランダー)間の水中光無線通信によるデータ転送技術、ソニーグループ株式会社 海洋研究開発機構 高塚 進 研究員による開発した高い時間分解能を持つ「イベントベースビジョンセンサー(EVS)」による海中を浮遊する生物・非生物粒子を高速に捉える「海洋粒子測定技術」、そして、富士通株式会社 江尻 革 専任研究員によるAIやAUVを活用し、海中の生物や構造物の3次元形状データを取得する海洋デジタルツイン技術の紹介が行われた。最後に、大気海洋研究所 山口 飛鳥 准教授(幹事)が、次回のフォーラム等関連行事の紹介と閉会の挨拶を行った。研究会後の懇談会は、大盛況で、活発な意見交換が行われた。

次のフォーラムは、10月17日(金)、大気海洋研究所2階講堂で開催いたします。皆様のご参加をお待ちしています。

(海中観測実装工学研究センター
特任研究員 杉松 治美)



開会の挨拶を行う巻准教授(幹事)



道田特任教授による故 徳山名誉教授の追悼



別所-上原助教による講演



ソートン准教授による講演



閉会の挨拶を行う山口准教授(幹事)



懇談会は大盛況



天津大学機械工学部と国際交流協定を締結

本所と中国の天津大学機械工学部（機械工程学院）は、5月22日（木）に本所 所長室において国際交流協定を締結しました。調印式には、天津大学より機械工程学院 劉正先 (Liu Zhengxian) 副院長、宇高 義郎 教授、国際交流事務担当 梁 茜 (Liang Qian) 氏、博士後期学生 範 晶函 (Fan Jinghan) 氏、本所からは年吉 洋 所長、鹿園 直毅 教授、有馬 みき 高度学術員が出席しました。天津大学の一員として来所された宇高教授は、本学 棚澤 一郎 名誉教授の研究室出身であり、現在も本所 白樫 了 教授の研究室でリサーチフェローを務めていただいております。本所と天津大学機械工学部はこれまでも連携を進めてきました。

天津大学は中国最初の近代的な大学（北洋大学）として1895年に開校され、中華人民共和国国務院教育部直属の国立大学です。第1期16校の国家重点大学の1つであり、国家「211工程」、「985工程」、「双一流」にも認定されており、特に理学や工学の分野などで多くの実績を挙げています。天津大学は23の学部、27の学院（大

学院研究科）があり、全学で教職員（研究者）4,895人、学部生1.9万人、修士課程学生1.4万人、博士課程学生5,800人が在籍する非常に大きな大学です。今回協定を結んだ機械工学部だけでも教職員（研究者）370人、学部生1,200人、修士課程学生1,400人、博士課程学生940人が在籍していて、本所の倍以上の規模になります。Times Higher Education (THE) 2025の機械・航空宇宙学分野において、中国国内9位にランキングされています。

本学 工学部 機械工学科の女子学生比率は今も昔も5%程度ですが、天津大学では20%を超えているとのことでした。機械工学部は広大な新キャンパスに2016年に移転し、先鋭的な研究だけではなく基盤的な研究に対しても予算が年々増加しているとのこと、非常に勢いを感じます。この連携を通じて、これまでの実質的な交流をさらに深めるとともに、本所も一層研究の活力を高められると期待しています。

（機械・生体系部門 教授 鹿園 直毅）



劉副院長と年吉所長



協定調印式の様子

左から、宇高教授、梁氏、劉副院長、年吉所長、有馬高度学術員、鹿園教授

ダイニングラボ活動報告

駒場リサーチキャンパスのダイニングラボは、継続的に様々な企画を開催している。

ランチタイムのリレー企画「はし休めプチトーク」は、3月10日(月)に第19回を開催し、本所 芦原 聡 教授が「うなる」をテーマに、5月14日(水)の第20回には本所 松永 行子 教授が「奏でる」をテーマに、研究紹介を行った。

駒場リサーチキャンパス構成員対象の交流企画「KOMANI BREAK TIME」は、3月21日(金)、4月21日(月)、5月23日(金)の計3回、開催した。3月21日(金)には、本所 松山 桃世 研究室主催の特別企画があり、RRI(責任ある研究・イノベーション)を背景に探究活動を行った新渡戸文化中学校・高等学校の生徒3名による発表があった。

本学研究者と産学連携に関心を持つ企業の担当者などが、それぞれの専門を越えて交流する場として企画された「駒Ⅱサロン」は、4月22日(火)に第5回目を

開催した。本所 吉江 尚子 教授の開会挨拶で始まり、今回は、「海と向き合う」をテーマに、本学 大学院新領域創成科学研究科 福永 真弓 教授による「科学技術と市場と倫理：食をめぐる新たな社会システムとは？」と題した講演と、本所 北澤 大輔 教授による「持続可能な養殖の最先端」と題したオンラインの講演があり、約40名の参加があった。

ダイニングラボ地域連携企画では、3月19日(水)に「明日香村ナイト」を開催し、奈良県明日香村関係者による同村の紹介や、地元農家による食材づくりへのこだわりが紹介された。懇談会では、明日香村の特色ある食材を使った料理が数多くふるまわれた。また、3月31日(月)に「かめ大学～純米酒と燗酒文化」を開催し、神亀酒造(埼玉県蓮田市)の蔵元による日本酒文化の紹介や、食堂コマニの料理と日本酒の提供がされた。

(社会連携・史料室)



芦原教授による講演の様子



松永教授による講演の様子



KOMANI BREAK TIME で
発表した生徒らと松山准教授



明日香村ナイトのチラシ



駒Ⅱサロンで開会挨拶する
吉江教授



福永教授による
講演の様子



北澤教授によるオンラインの
講演の様子



本所 年吉 洋 所長による
乾杯挨拶

第6回UT²-MAC (第23回UT²) 学生ワークショップ開催報告

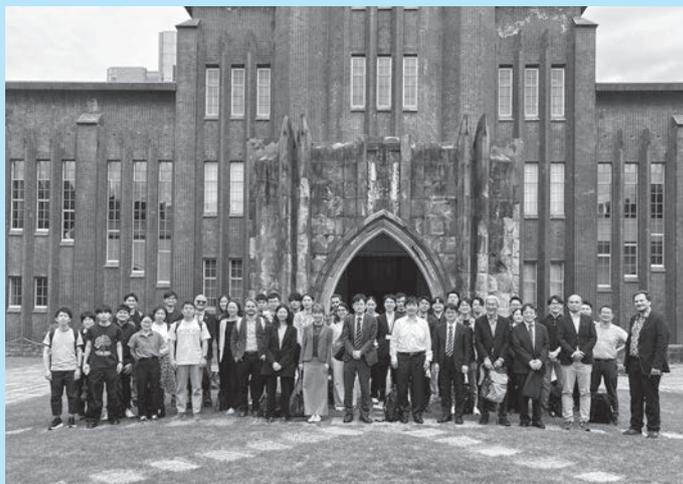
6月3日(火)から5日(木)の3日間にわたり、第6回UT²-MAC学生ワークショップが本学にて開催されました。本ワークショップは、東京大学(UT)、カナダのトロント大学(UT)、マクマスター大学(MAC)の3大学の学生交流を目的としており、2003年に始まった東京大学とトロント大学による学生ワークショップ「UT²」が発展・拡大したものです。UT²-MACとしては今回が第6回、UT²としては通算第23回の開催となります。

今回のワークショップは、本学 大学院工学系研究科および本所の主催により行われ、3日(火)は本学 本郷キャンパスのHASEKO-KUMAホール、4日(水)は工学部4号館、5日(木)は駒場リサーチキャンパスの本所にて開催され、日本およびカナダの両国から、学

生31名、教員12名の参加がありました。本学側の世話人は、工学系研究科原子力国際専攻 石川 顕一 教授、同研究科 バイオエンジニアリング専攻 太田 誠一 准教授、本所 枝川 圭一 教授が担当しました。

ワークショップは、本学 工学系研究科 加藤 泰浩 研究科長・教授による開会の挨拶で始まり、合計41件の研究発表に加えて、各大学・各専攻の紹介があり、本所 枝川教授より本所の紹介も行われました。講演に加え、工学系研究科および本所の研究室見学ツアーも実施され、参加学生たちは講演や見学を通じて学術的な交流を深めました。また、バンケットやお別れパーティー、都内観光といったイベントも行われ、学生間の親睦が一層深まりました。

(基礎系部門 教授 枝川 圭一)



ワークショップ参加者の集合写真



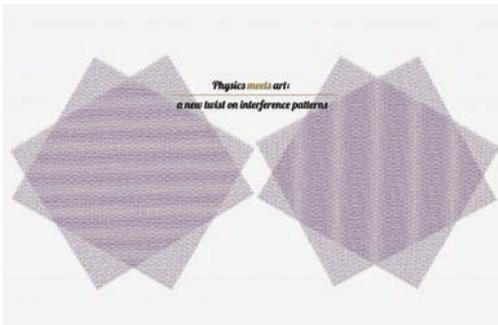
ワークショップで本所の紹介をする枝川教授

P R E S S R E L E A S E

【3月28日記者発表】

二次元格子をひねって重ねると一次元超格子が出現 ——二次元原子層物質が一次元物性研究の新しいプラットフォームに——

基礎系部門 助教 張 奕勁、博士課程 楊 瀟涵、教授 町田 友樹



シート状の原子層二枚を、特定の角度に向きをずらして重ねると、一方向に縞模様を持つ一次元モアレ超格子構造が形成できることを発見しました。

従来のモアレ超格子は原子層の構造と類似の二次元の周期性を持ちますが、本研究では、一次元の周期性しか持たない新しいコンセプトのモアレ超格子を提案し、実験・理論の両面からその存在を実証しました。

モアレ超格子による原子層物質の性質・物性の人工制御や、一次元性ならではの異方性の高い新奇物性研究の新しいプラットフォームになること、また、素子応用に向けた研究の発展にも寄与することが期待されています。

<https://www.iis.u-tokyo.ac.jp/ja/news/4726/>

掲載誌：ACS Nano

DOI: 10.1021/acsnano.4c17317

【3月31日共同発表】

国内初！岡崎市と東京大学生産技術研究所は「長時間洪水予測技術を用いた災害対策の推進に関する協定」を締結しました。

人間・社会系部門 教授 芳村 圭



岡崎市と本所は、長時間洪水予測技術を用いた災害対策研究を推進し、併せて、風水害対応を高度化するために協定を締結した。洪水災害対策での協定は、本所と基礎自治体にとって、国内初の事例である。

国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）未来創造事業「衛星観測とモデルシミュレーションとの融合による長時間洪水予測の実装：洪水を災害にさせない社会の実現に向けて」（代表：芳村 圭）のもと、本所、京都大学、名古屋大学などの研究機関とともに岡崎市における風水害災害対策研究を推進する。

<https://www.iis.u-tokyo.ac.jp/ja/news/4735/>

締結日：令和7年3月31日（月曜日）

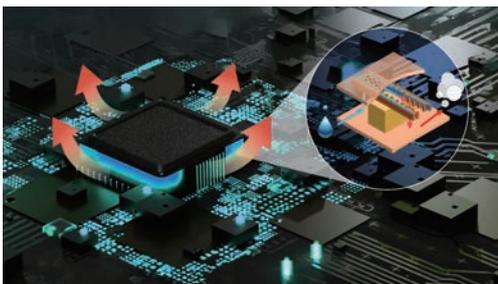
（発表主体：岡崎市）

【4月14日記者発表】

三次元マイクロ流路で半導体チップの省エネ水冷を実現 ——AI半導体の高性能化を支える高効率放熱技術——

情報・エレクトロニクス系部門 博士課程 シ ホンユアン（研究当時）、特任助教 柳澤 亮人（研究当時）、
国際研究員 ジャラベール ロラン、教授 野村 政宏、

機械・生体系部門 特任研究員 グラール サイモン（研究当時）、准教授 金 秀炫



電子機器の小型化・高性能化に伴い、半導体チップの発熱が増加の一途をたどっており、熱を効率よく取り除く技術が求められている。

特殊な三次元マイクロ流路構造を持つ水冷システムを開発し、世界最高レベルの冷却効率と高い安定性を達成した。

この熱管理技術により、AIチップや高出力電子機器の性能向上と省エネ化が可能となり、次世代電子機器の開発とカーボンニュートラルの実現への貢献が期待される。

<https://www.iis.u-tokyo.ac.jp/ja/news/4747/>

掲載誌：Cell Reports Physical Science

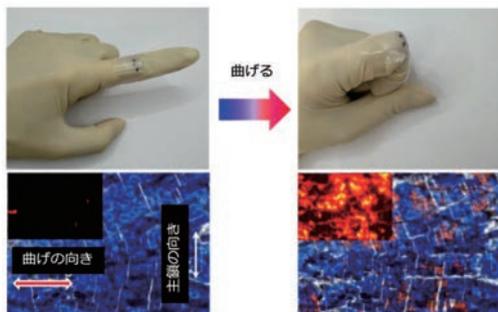
DOI：10.1016/j.xcrp.2025.102520

P R E S S R E L E A S E

[4月25日記者発表]

色の变化で力を可視化するウェアラブルセンサの開発 ——感度の限界を突破！異方性制御で力に反応するスマート素材を高感度に——

物質・環境系部門 准教授 杉原 加織



色の变化で力を可視化するウェアラブルセンサを開発した。本研究では、これまで見過ごされてきた材料設計の鍵である「面内異方性」に着目し、力を印加することで色を変化させるメカノクロミックポリマーであるポリジアセチレンの力感受性を、最大14倍に高めることに成功した。独自に開発した、x, y, z 方向の力を定量化できるナノ摩擦力/蛍光複合顕微鏡の合体装置を用いて、ポリマー主鎖に対して垂直方向に力を加えることで、ナノスケールで反応が連鎖する"ドミノ効果"を発見し、この知見をもとに、柔軟かつ超高感度な「力」センサを開発した。今後のウェアラブルデバイス、医療機器、機械分野での応用が期待される。

<https://www.iis.u-tokyo.ac.jp/ja/news/4752/>

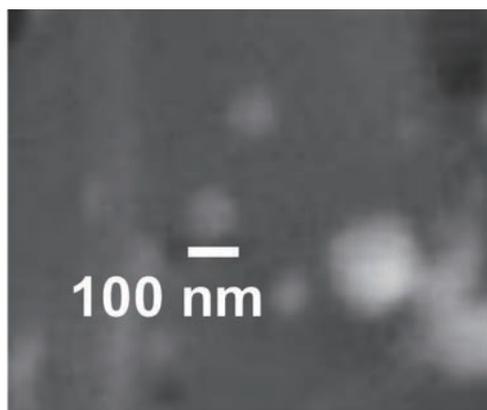
掲載誌：Nano Letters

DOI：10.1021/acs.nanolett.5c00085

[5月20日記者発表]

ウイルスと同サイズの微粒子を捕捉 ——ナノファイバー製フィルターと分子性ナノシートの複合化——

物質・環境系部門 教授 石井 和之



本所 石井 和之 教授、株式会社ナフィアス 渡邊 圭 代表取締役、青山学院大学理工学部 長谷川 美貴 教授らの研究グループは、数百ナノメートルの細孔を有するナノファイバー製フィルターを、1ナノメートル程度の細孔を有するポルフィリン系ナノシートで覆うことで、ウイルスと同サイズの100ナノメートル微粒子を直接捕捉することに成功した。これは、マランゴニ効果を用いた効果的な界面反応による、数センチメートル四方の分子性ナノシートの作製技術と、スタンプ法を用いたナノファイバー製フィルターと複合化技術の開発を基盤としている。大きな圧力損失なしにウイルスや小さな微粒子を除くフィルター開発が進むことが期待される。

<https://www.iis.u-tokyo.ac.jp/ja/news/4777/>

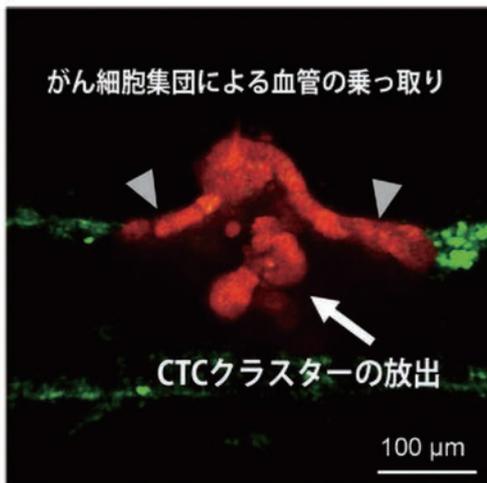
掲載誌：Materials Advances

DOI：10.1039/D5MA00058K

[5月22日記者発表]

がん-微小血管チップでがん転移過程の一部を可視化 ——分子標的薬の開発や薬剤スクリーニングへの応用に期待——

機械・生体系部門 教授 松永 行子



本所 松永 行子 教授らのグループは、がん細胞クラスター(circulating tumor cell clusters：CTCクラスター)が血管内に形成する過程を可視化する「がん-微小血管チップ」を開発した。腫瘍オルガノイドと血管内皮細胞を三次元培養し、がん細胞の集団移動、血管構造の乗っ取り(vessel co-option)、血管内へのクラスター放出という一連のプロセスを世界で初めて明確に観察した。特に、がん細胞由来のTGF- β (トランスフォーミング増殖因子 β)が内皮細胞にEndoMT (endothelial-mesenchymal transition:内皮-間葉転換)を誘導し、さらに内皮細胞が分泌するActivin (TGF- β ファミリーのメンバー)が、がんの浸潤性を高める「がん-血管相互作用による悪性化の連鎖」が、CTCクラスターの血管侵入と形成に重要であることを示した。

本成果は、がん転移抑制を目指すがん転移メカニズムの解明、治療標的分子の探索、および創薬スクリーニングに貢献する革新的なプラットフォームとなることが期待される。

<https://www.iis.u-tokyo.ac.jp/ja/news/4775/>

掲載誌：iScience

DOI：10.1016/j.isci.2025.112517

P R E S S R E L E A S E

【5月23日記者発表】

培養肉の「味成分」は熟成で増加 ——分化と熟成がもたらす遊離アミノ酸変化を解明し、味制御へ——

機械・生体系部門 特任教授 竹内 昌治

本所 竹内 昌治 特任教授（本務：本学大学院情報理工学系研究科 教授）らの研究グループは、培養筋肉細胞と3次元筋組織の熟成によって、肉の味の鍵となる遊離アミノ酸 (FAAs) が顕著に増加することを明らかにした。

分化によって一度減少したFAAsは、熟成によって再び増加することが確認された。さらに熟成後の培養肉は市販の牛肉よりも高いFAAs含有量を持つことが示された。

培地中のFAAs濃度を変化させることで、細胞内FAAsも変化することが確認され、培養条件によって培養肉の味（甘味、うま味、苦味）を制御できる可能性が示された。



<https://www.iis.u-tokyo.ac.jp/ja/news/4782/>

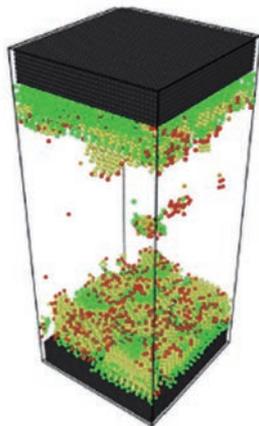
掲載誌：Food Chemistry

DOI：10.1016/j.foodchem.2025.144753

【6月5日記者発表】

固体表面上の氷の形成を操る“水”の構造の秘密を解明 ——氷の形成は基板表面付近の水の秩序構造で決まる——

着霜制御サイエンス社会連携研究部門 特任研究員（研究当時） サン ガン、
先端研シニアプログラムアドバイザー（特任研究員） 田中 肇



氷がどのようにして固体表面上で形成されるかという長年の謎に対して、新たな理解をもたらす研究成果を発表した。これまで、氷の固体表面上での不均一核形成（表面に誘起されて氷の「芽」ができる現象）は、主に表面の「親水性（濡れやすさ）」や「氷と基板の結晶格子の相性の良さ」などに依存していると考えられてきたが、本研究では、氷の形成は実は表面そのものよりも、表面に接する液体水の秩序化の程度に大きく依存していることを、分子レベルで明らかにした。

この研究成果は、氷に限らず、シリコンやシリカといった四面体液体の表面結晶化にも共通する普遍的な機構である可能性が高く、気候モデルにおける氷粒子形成の理解、低温保存や凍結制御技術、さらにはナノマテリアルの設計指針にまで幅広く応用が期待される。

<https://www.iis.u-tokyo.ac.jp/ja/news/4784/>

掲載誌：Journal of Colloids and Interface Science

DOI: 10.1016/j.jcis.2025.137812

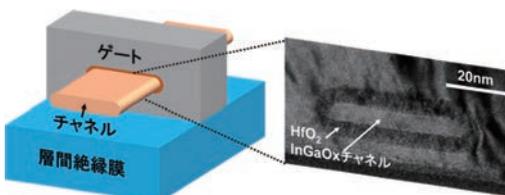
【6月6日記者発表】

ゲートオールアラウンド型 ナノシート酸化半導体トランジスタを開発 ——半導体の高集積化・高機能化へ期待——

情報・エレクトロニクス系部門 准教授 小林 正治

本所 小林 正治 准教授、奈良先端科学技術大学院大学 先端科学技術研究科 物質創成科学領域 浦岡 行治 教授、高橋 崇典 助教らによる共同研究グループは、原子層堆積法を用いて結晶化した酸化半導体を形成する技術を開発し、トランジスタの高性能化と高信頼性化を実現した。さらに同技術を用いてゲートオールアラウンド型酸化半導体トランジスタの開発に成功した。

本技術により、半導体のさらなる高集積化とそれによる高機能化が可能になり、ビッグデータを利活用する社会サービスの展開が期待される。



<https://www.iis.u-tokyo.ac.jp/ja/news/4785/>

〈シンポジウム名〉2025 Symposium on VLSI Technology and Circuits

〈題名〉A Gate-All-Around Nanosheet Oxide Semiconductor Transistor by Selective Crystallization of InGaOx for Performance and Reliability Enhancement

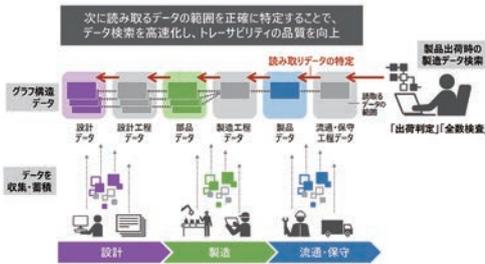
P R E S S R E L E A S E

[6月19日共同発表]

本所と日立、データベースの再帰問合せを高速化する「動的プルーニング技術」を開発

情報・エレクトロニクス系部門 教授 合田 和生

本所 早水 悠登 特任助教、合田 和生 教授らと株式会社日立製作所の研究グループは、大規模データベースに対する再帰問合せと呼ばれるデータ処理を大幅に高速化する「動的プルーニング技術」を開発した。再帰問合せは、データベース内でグラフ様の参照関係をもつデータを辿る処理に用いられ、従前の実行方式では不要なデータを繰り返し読み取る必要があった。本技術では、再帰問合せの実行時に、前段の処理結果に基づき次段で読み取る必要がないデータを特定することにより不要なデータ読み取りを削減し、データ処理を大幅に高速化する。今回、製造業の製品出荷判定を対象にした検証では、データ検索速度を従来比で最大135倍向上できることを確認した。製品の設計から製造、流通、保守までの工程や部品の追跡などのグラフ構造データの分析業務を迅速化し、トレーサビリティの品質向上への貢献が期待される。



<https://www.iis.u-tokyo.ac.jp/ja/news/4794/>

(発表主体：株式会社日立製作所)

掲載誌：Proc. ACM SIGMOD

DOI: 10.1145/372212.3724434

VISITS

国際研究員

氏名	国籍	期間	受入研究室
WANG, Xiumei	中国	2025/ 8/ 1 ~ 2026/ 7/31	人間・社会系部門 竹内 渉 教授
JIN, Huiran	中国	2025/ 8/ 1 ~ 2026/ 7/31	人間・社会系部門 芳村 圭 教授
HAMAOU, Georges	フランス	2025/ 9/15 ~ 2026/ 9/14	情報・エレクトロニクス系部門 野村 政宏 教授

国際協力研究員

氏名	国籍	期間	受入研究室
BECCARI, Cecilia	イタリア	2025/ 5/19 ~ 2025/10/31	情報・エレクトロニクス系部門 テイクシエ三田 アニエス 准教授
MANTEGNA, Miriam	イタリア	2025/ 9/19 ~ 2026/ 3/31	人間・社会系部門 大岡 龍三 教授

博士研究員

氏名	国籍	期間	受入研究室
伊東 優	日本	2025/ 4/ 1 ~ 2026/ 3/31	人間・社会系部門 今井 公太郎 教授
HUA, Yang	中国	2025/ 4/ 1 ~ 2026/ 3/31	人間・社会系部門 林 憲吾 准教授
伊藤 宗嵩	日本	2025/ 4/ 1 ~ 2026/ 3/31	機械・生体系部門 長谷川 洋介 教授
LIU, Zihao	中国	2025/ 4/ 1 ~ 2026/ 3/31	情報・エレクトロニクス系部門 平本 俊郎 教授
CUI, Jinyue	中国	2025/ 5/ 1 ~ 2026/ 4/30	機械・生体系部門 アズィッズ ムハンマッド 准教授
KUMAR, Vivek	インド	2025/ 5/15 ~ 2026/ 3/31	機械・生体系部門 長谷川 洋介 教授

修士研究員

氏名	国籍	期間	受入研究室
国枝 歆	日本	2025/ 4/10 ~ 2026/ 3/31	人間・社会系部門 今井 公太郎 教授

東京大学特別研究員

氏名	国籍	期間	受入研究室
RUPARELL, Karan	イギリス	2025/ 6/16 ~ 2025/ 8/26	人間・社会系部門 山崎 大 准教授
MATEOS, Jeremy	フランス	2025/ 6/16 ~ 2025/ 8/26	機械・生体系部門 金 秀炫 准教授
PURNOMO, Victor	スウェーデン	2025/ 6/24 ~ 2025/ 8/26	機械・生体系部門 アズィッズ ムハンマッド 准教授

PERSONNEL

生産技術研究所 教員等

(退職)

発令年月日	氏名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
R7. 3.31	志村 努	定年退職	-	教授 附属光物質ナノ科学研究センター
R7. 3.31	須田 義大	定年退職	-	教授 機械・生体系部門
R7. 3.31	平川 一彦	定年退職	-	教授 情報・エレクトロニクス系部門
R7. 3.31	井上 博之	定年退職	-	教授 物質・環境系部門
R7. 3.31	平野 敏行	退職	-	助教 機械・生体系部門
R7. 3.31	齋藤 理	退職	-	助教 機械・生体系部門
R7. 3.31	柴田 基洋	退職	准教授 名古屋大学未来材料・システム研究所	助教 物質・環境系部門

(学内異動(出))

発令年月日	氏名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
R7. 5. 1	張 奕勳	昇任	准教授 大学院理学系研究科	助教 基礎系部門

(所内異動)

発令年月日	氏名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
R7. 4. 1	八木 俊介	昇任	教授 附属持続型材料エネルギーインテグレーション研究センター	准教授 附属持続型材料エネルギーインテグレーション研究センター
R7. 4. 1	池内与志穂	昇任	教授 物質・環境系部門	准教授 物質・環境系部門
R7. 4. 1	武藤 宝	昇任	講師 人間・社会系部門	助教 人間・社会系部門
R7. 4.16	徳本 有紀	昇任	准教授 物質・環境系部門	講師 物質・環境系部門

(採用)

発令年月日	氏名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
R7. 4. 1	鳴海 大翔	採用	講師 物質・環境系部門	助教 京都大学理工工学系
R7. 4. 1	王 威	採用	助教 機械・生体系部門 中野研究室	助教 東京農工大学大学院工学研究科
R7. 4. 1	SAHACHAISREE SOMPORN	採用	助教 人間・社会系部門 大口研究室	特任研究員 人間・社会系部門
R7. 4.16	木下 圭	採用	助教 基礎系部門 町田研究室	特任助教
R7. 5. 1	CHOW SIU YU	採用	助教 物質・環境系部門 池内研究室	特任助教
R7. 5. 1	羽佐田紘之	採用	助教 人間・社会系部門 本間(裕)研究室	特任助教

(副所長・附属研究施設長)

発令年月日	氏名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
R7. 4. 1	大口 敬	兼務	副所長	-
R7. 4. 1	新野 俊樹	兼務	副所長	-
R7. 4. 1	町田 友樹	兼務	副所長	-
R7. 4. 1	大口 敬	兼務	附属大規模実験高度解析推進基盤長	-
R7. 4. 1	新野 俊樹	兼務	附属価値創造デザイン推進基盤長	-
R7. 4. 1	長谷川洋介	兼務	附属革新的シミュレーション研究センター長	-
R7. 4. 1	今井公太郎	兼務	附属価値創造デザイン推進基盤副基盤長	-
R7. 4. 1	梅野 宜崇	兼務	附属革新的シミュレーション研究センター副センター長	-
R7. 4. 1	八木 俊介	兼務	附属持続型材料エネルギーインテグレーション研究センター副センター長	-

(兼務教員)

発令年月日	氏名	異動内容	兼務職名・所属	本務職名・所属
R7. 4. 1	山中 俊治	兼務	特任教授 附属価値創造デザイン推進基盤	特別教授 東京大学特別教授室
R7. 4. 1	大島 まり	兼務	教授 機械・生体系部門	教授 大学院情報学環
R7. 4. 1	PENNINGTON MILES RICHARD MACINTOSH	兼務	教授 附属価値創造デザイン推進基盤	教授 大学院情報学環
R7. 4. 1	目黒 公郎	兼務	教授 人間・社会系部門	教授 大学院情報学環
R7. 4. 1	大原 美保	兼務	教授 人間・社会系部門	教授 大学院情報学環
R7. 4. 1	岩本 敏	兼務	教授 情報・エレクトロニクス系部門	教授 先端科学技術研究センター
R7. 4. 1	瀬崎 薫	兼務	教授 情報・エレクトロニクス系部門	教授 空間情報科学研究センター
R7. 4. 1	関本 義秀	兼務	教授 人間・社会系部門	教授 空間情報科学研究センター
R7. 4. 1	北條 博彦	兼務	教授 物質・環境系部門	教授 環境安全研究センター
R7. 4. 1	山川 雄司	兼務	准教授 機械・生体系部門	准教授 大学院情報学環
R7. 4. 1	上條 俊介	兼務	准教授 情報・エレクトロニクス系部門	准教授 大学院情報学環
R7. 4. 1	沼田 宗純	兼務	准教授 人間・社会系部門	准教授 大学院情報学環
R7. 4. 1	松久 直司	兼務	准教授 情報・エレクトロニクス系部門	准教授 先端科学技術研究センター
R7. 4. 1	小林 正治	兼務	准教授 情報・エレクトロニクス系部門	准教授 大学院工学系研究科

(客員部門)

発令年月日	氏名	異動内容	職名・所属	本務職名・所属
R7. 4. 1	紙田 徹	委嘱 称号付与	客員教授 高次協調モデリング部門	-
R7. 4. 1	菅谷 綾子	委嘱 称号付与	客員教授 基礎系部門	-
R7. 4. 1	崔 竣豪	委嘱 称号付与	客員教授 基礎系部門	-
R7. 4. 1	寒川 哲臣	委嘱 称号付与	客員教授 情報・エレクトロニクス系部門	-
R7. 4. 1	伊藤 哲朗	委嘱 称号付与	客員教授 人間・社会系部門	-

(寄付研究部門等)

発令年月日	氏名	異動内容	兼務職名・所属	本務職名・所属
R7. 4. 1	岡部 徹	兼務	特任教授 非鉄金属資源循環工学寄付研究部門	教授 附属持続型材料エネルギーインテグレーション研究センター
R7. 4. 1	所 千晴	兼務	特任教授 非鉄金属資源循環工学寄付研究部門	教授 大学院工学系研究科
R7. 4. 1	山中 俊治	兼務	特任教授 非鉄金属資源循環工学寄付研究部門	特別教授 東京大学特別教授室
R7. 4. 1	鳴海 大翔	兼務	特任講師 非鉄金属資源循環工学寄付研究部門	講師 物質・環境系部門
R7. 4. 1	芦原 聡	兼務	特任教授 ニコン光・精密フロンティア寄付研究部門	教授 基礎系部門
R7. 4. 1	池内与志穂	兼務	特任教授 ニコン光・精密フロンティア寄付研究部門	教授 物質・環境系部門
R7. 4. 1	鹿園 直毅	兼務	特任教授 エネルギーシステムインテグレーション社会連携研究部門	教授 附属持続型材料エネルギーインテグレーション研究センター

PERSONNEL

(寄付研究部門等)

発令年月日	氏名	異動内容	兼務職名・所属	本務職名・所属
R7. 4. 1	大岡 龍三	兼 務	特任教授 エネルギーシステムインテグレーション社会連携研究部門	教授 附属持続型材料エネルギーインテグレーション研究センター
R7. 4. 1	岩船由美子	兼 務	特任教授 エネルギーシステムインテグレーション社会連携研究部門	教授 人間・社会系部門
R7. 4. 1	本間 裕大	兼 務	特任准教授 都市街路スマート・モビリティ学社会連携研究部門	准教授 人間・社会系部門

(特任教員)

発令年月日	氏名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
R7. 3.31	竹本真一郎	任期満了	特任教授 (特定短時間)	特任教授
R7. 3.31	新田 友子	任期満了	-	特任講師
R7. 3.31	平山 颯紀	任期満了	助教 千葉大学大学院工学研究科	特任助教
R7. 3.31	内倉 悠	任期満了	-	特任助教
R7. 3.31	上村 淳	任期満了	技術専門職員 情報・エレクトロニクス系部門	特任助教
R7. 3.31	小島 駿	任期満了	助教 横浜国立大学	特任助教
R7. 3.31	宮崎 邦洋	任期満了	-	特任助教
R7. 3.31	柳澤 亮人	任期満了	-	特任助教
R7. 3.31	田村 敦史	任期満了	助教 大学院新領域創成科学研究科	特任助教
R7. 4. 1	陳 柏宏	採 用	特任教授 情報・エレクトロニクス系部門	-
R7. 4. 1	竹本真一郎	採 用	特任教授 (特定短時間) 基礎系部門	特任教授
R7. 4. 1	徳田 大輔	採 用	特任講師 人間・社会系部門	-
R7. 4. 1	早水 悠登	採 用	特任助教 情報・エレクトロニクス系部門 合田研究室	-
R7. 4. 1	KLEBANOV YURI	任 命	特任助教 機械・生体系部門 ベニントン研究室	特任研究員
R7. 4. 1	MENON VIVEK ANAND	任 命	特任助教 情報・エレクトロニクス系部門 年吉研究室	特任研究員
R7. 4. 1	宮崎 邦洋	採 用	特任助教 (特定短時間) 情報・エレクトロニクス系部門 豊田 (正) 研究室	特任助教
R7. 4. 1	大口 敬	任 命	特任教授 都市街路スマート・モビリティ学社会連携研究部門	教授 人間・社会系部門
R7. 4. 1	平岩 洋三	任 命	特任准教授 都市街路スマート・モビリティ学社会連携研究部門	准教授 人間・社会系部門
R7. 4. 2	SOUKHOROUKOV VLADIMIR	採 用	特任教授 機械・生体系部門	-
R7. 4.15	木下 圭	退 職	助教	特任助教
R7. 4.16	LEELAPRACHAKUL TATCHAPHON	任 命	特任助教 基礎系部門 梅野研究室	特任研究員
R7. 4.30	CHOW SIU YU	退 職	助教	特任助教
R7. 4.30	羽佐田絃之	退 職	助教	特任助教
R7. 5. 1	LAM ANDY YAT WUNG	任 命	特任助教 物質・環境系部門 坪山研究室	特任研究員
R7. 5. 1	OLSON ROMAN	任 命	特任助教 人間・社会系部門 芳村研究室	特任研究員

(特任研究員)

発令年月日	氏名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
R7. 3.31	杉松 治美	定年退職	特任研究員 機械・生体系部門	特任研究員 機械・生体系部門
R7. 3.31	小笠原朋隆	任期満了	-	特任研究員
R7. 3.31	越田 裕之	任期満了	特任研究員 大学院総合文化研究科	特任研究員
R7. 3.31	野地 隼平	任期満了	特任研究員 東北大学大学院工学研究科	特任研究員
R7. 3.31	MOHAMMAD MOID	任期満了	特任研究員 先端科学技術研究センター	特任研究員
R7. 3.31	YI YUSHI	任期満了	特任研究員 大学院工学系研究科機械工学専攻	特任研究員
R7. 3.31	玉澤 春史	任期満了	特任研究員 (特定短時間)	特任研究員
R7. 3.31	CHEN WEIYAN	任期満了	-	特任研究員
R7. 3.31	LEFEBVRE ANTHONY MICHEL LUC	任期満了	-	特任研究員
R7. 3.31	KUMAR VIVEK	任期満了	-	特任研究員
R7. 3.31	伊藤 崇嵩	任期満了	-	特任研究員
R7. 3.31	TIAN YUE	任期満了	特任研究員 国立研究開発法人 理化学研究所 量子コンピューター研究センター	特任研究員
R7. 3.31	倉持 悠輔	任期満了	-	特任研究員
R7. 3.31	APOSTOLOPOULOS ANTONIOS	任期満了	外国人特別研究員 独立行政法人日本学術振興会	特任研究員
R7. 3.31	井澤 佳織	任期満了	特任助教 先端科学技術研究センター	特任研究員
R7. 3.31	国枝 歙	任期満了	-	特任研究員
R7. 3.31	SAHACHAISEREE SOMPORNY	任期満了	助教	特任研究員
R7. 3.31	TRINH XUAN TRUONG	任期満了	助教 山口大学大学院創成科学研究科	特任研究員
R7. 4. 1	WANG SHUOHAN	採 用	特任研究員 機械・生体系部門 梶原研究室	-
R7. 4. 1	杉松 治美	採 用	特任研究員 機械・生体系部門 ソーントン研究室	特任研究員
R7. 4. 1	DING YUTIAN	採 用	特任研究員 機械・生体系部門 北澤研究室	-
R7. 4. 1	HU BEI	採 用	特任研究員 機械・生体系部門 土屋研究室	-
R7. 4. 1	MAO JINGTIAN	採 用	特任研究員 機械・生体系部門 土屋研究室	-
R7. 4. 1	PHOLSEN NATTHAJUKS	採 用	特任研究員 情報・エレクトロニクス系部門 岩本研究室	-
R7. 4. 1	石原 照也	採 用	特任研究員 情報・エレクトロニクス系部門 岩本研究室	-
R7. 4. 1	吉本 廣雅	採 用	特任研究員 情報・エレクトロニクス系部門 合田研究室	-
R7. 4. 1	石井 衛	採 用	特任研究員 物質・環境系部門 坪山研究室	特別研究員 独立行政法人日本学術振興会

PERSONNEL

(特任研究員)

発令年月日	氏名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
R7. 4. 1	杉浦 佑	採用	特任研究員 物質・環境系部門 溝口研究室	-
R7. 4. 1	ドゥンキー 智也 ルカ	採用	特任研究員 物質・環境系部門 池内研究室	-
R7. 4. 1	飯田 康生	採用	特任研究員 人間・社会系部門 芳村研究室	特別研究員 独立行政法人日本学術 振興会
R7. 4. 1	梶山 青春	採用	特任研究員 人間・社会系部門 山崎研究室	特別研究員 独立行政法人日本学術 振興会
R7. 4. 1	玉田 大	採用	特任研究員 人間・社会系部門 豊田(啓)研究室	特任研究員(特定短時間)
R7. 4. 2	KORSA TESSA	採用	特任研究員 機械・生体系部門 白樫研究室	-
R7. 4.15	山縣 広和	任期満了	-	特任研究員
R7. 4.30	服部 純子	退職	-	特任研究員
R7. 5. 1	高谷 和樹	採用	特任研究員 基礎系部門 浅井研究室	-
R7. 5.31	ZHOU YUJIAO	退職	外国人特別研究員 独立行政法人日本学術振 興会	特任研究員
R7. 6. 1	SHEN WENYIN	採用	特任助教 物質・環境系部門 杉原研究室	特定研究員 京都大学高等研究院

(特任専門職員)

発令年月日	氏名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
R7.4.24	皆川 悦子	採用	特任専門職員	一般職員

(学術専門職員)

発令年月日	氏名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
R7. 3.31	岩本 慶子	定年退職	学術専門職員 機械・生体系部門	学術専門職員 機械・生体系部門
R7. 3.31	吉本 英子	定年退職	学術専門職員 人間・社会系部門	学術専門職員 人間・社会系部門
R7. 3.31	土屋 和彦	任期満了	-	学術専門職員 物質・環境系部門
R7. 4. 1	大金 薫	採用	学術専門職員 次世代育成オフィス	特任専任 URA 大学共同利用機関法人高 エネルギー加速器研究機 構
R7. 4. 1	田村 寿恵	採用	学術専門職員 人間・社会系部門 本間(健)研究室	学術専門職員(特定短時間)

(再雇用)

発令年月日	氏名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
R7. 4. 1	岩本 慶子	再雇用	学術専門職員 機械・生体系部門 金(秀)研究室	学術専門職員 機械・生体系部門
R7. 4. 1	吉本 英子	再雇用	学術専門職員 人間・社会系部門 竹内(渉)研究室	学術専門職員 人間・社会系部門

生産技術研究所 技術系

(所内異動)

発令年月日	氏名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
R7. 4. 1	青柳 星見	昇任	技術専門職員 機械・生体系部門 金(範)研究室	一般技術職員 機械・生体系部門
R7. 4. 1	大西 秀明	昇任	技術専門職員 試作工場	一般技術職員 試作工場
R7. 4. 1	菊地 拓郎	昇任	技術専門職員 試作工場	一般技術職員 試作工場
R7. 4. 1	土田 茂宏	配置換	シニアエキスパート 基礎系部門 梅野研究室	技術専門員 基礎系部門
R7. 4. 1	築場 豊	配置換	シニアエキスパート 物質・環境系部門 溝口研究室	技術専門員 物質・環境系部門

(採用)

発令年月日	氏名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
R7. 4. 1	開元 宏樹	採用	一般技術職員 機械・生体系部門 檜垣研究室	-
R7. 4. 1	北添 牧子	採用	技術専門職員 情報・エレクトロニク ス系部門 岩本研究室	-
R7. 4. 1	上村 淳	採用	技術専門職員 情報・エレクトロニク ス系部門 小林(徹)研究室	特任助教

(学内異動(出))

発令年月日	氏名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
R7. 4. 1	河内 泰三	配置換	技術専門職員 アイソトープ総合セン ター	技術専門職員 基礎系部門

(再雇用)

発令年月日	氏名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
R7. 4. 1	高野 早苗	再雇用 任期更新	一般技術職員 物質・環境系部門 藤岡研究室	-
R7. 4. 1	片倉 智	再雇用 任期更新	一般技術職員 基礎系部門 枝川研究室	-
R7. 4. 1	奥山 光作	再雇用 任期更新	一般技術職員 物質・環境系部門 工藤研究室	-

PERSONNEL

生産技術研究所 事務系 (退職)

発令年月日	氏名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
R7. 3.31	齊藤 尚子	定年退職	総務課主事員 (研究総務チーム)	総務課主事員 (研究総務チーム)

(学内異動 (出))

発令年月日	氏名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
R7. 4. 1	加藤有央子	昇任	副課長 社会連携部渉外課	総務課 上席係長 (総務チーム) / 総務チーム チームリーダー
R7. 4. 1	為房 瑞穂	配置換	係長 工学系・情報理工学系等 情報図書館情報サービス チーム	総務課係長 (図書チーム) / 図書チームチームリー ダー
R7. 4. 1	小澤日菜子	配置換	一般職員 人事企画課 (研修出向)	総務課一般職員 (人事・ 厚生チーム)
R7. 4. 1	平原 康道	配置換	副課長 理学系研究科等経理課経 理チーム	経理課副課長 (研究推進 担当) 連携研究支援室長
R7. 4. 1	大久保幸子	昇任	副課長 産学協創部協創課協創事 業チーム	総務課上席係長 (連携研 究支援室執行チーム)
R7. 4. 1	加藤 耕士	配置換	シニアスタッフ (事務) 教養学部等総務課教室事 務チーム	経理課上席係長 (予算執 行チーム) / 予算執行 チームチームリーダー
R7. 4. 1	森山 博樹	配置換	上席係長 医科学研究所研究支援課 外部資金戦略チーム	経理課上席係長 (予算執 行チーム) / 予算執行 チームサブリーダー
R7. 4. 1	和氣菜穂子	配置換	係長 教養学部等経理課研究支 援チーム	経理課係長 (連携研究支 援室企画チーム) / 企画 チームサブリーダー
R7. 4. 1	齋藤 利弥	配置換	係長 経営企画部経営戦略課企 画総務チーム	経理課係長 (連携研究支 援室執行チーム)
R7. 4. 1	山田 勝己	配置換	一般職員 情報システム部情報戦略 課情報戦略チーム	経理課一般職員 (連携研 究支援室企画チーム)

(採用)

発令年月日	氏名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
R7. 4. 1	上北 藍子	採用	総務課一般職員 (総務 チーム)	-

(臨時的採用)

発令年月日	氏名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
R7.4.23	皆川 悦子	任期満了	総務課特任専門職員 (国 際交流チーム)	総務課一般職員 (国際 交流チーム)

(学内異動 (入))

発令年月日	氏名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
R7. 4. 1	山本 太	出向復帰	経理課副課長 (研究推進 担当) 連携研究支援室長	課長補佐 国立天文台財務課
R7. 4. 1	木村 和則	配置換	経理課上席係長 (予算執 行チーム) / 予算執行 チームチームリーダー	上席係長 医学部・医学系研究科財 務・研究支援チーム
R7.4.1	中野 洋介	配置換	経理課上席係長 (連携 研究支援室執行チーム) / 執行チームサブリー ダー	上席係長 施設部施設企画課予算・ 契約チーム
R7. 4. 1	前田 幸子	配置換	経理課係長 (連携研究支 援室企画チーム) / 企画 チームサブリーダー	係長 医科学研究所研究支援課 外部資金戦略チーム
R7. 4. 1	矢吹 史子	配置換	経理課主任 (予算執行 チーム)	主任 財務部決算課資産会計 チーム
R7. 4. 1	長谷川由紀子	出向復帰	総務課係長 (図書チ ーム) / 図書チームチ ームリーダー	係長 東京海洋大学学術情報課 学術情報第二係
R7. 4. 1	町田 萌佳	配置換	総務課一般職員 (人事・ 厚生チーム)	一般職員 財務部経理課資金運用 チーム
R7. 4. 1	濱田 楓	配置換	経理課一般職員 (連携研 究支援室企画チーム)	一般職員 医科学研究所研究支援課 調達契約チーム
R7. 4. 1	櫻井 葉香	配置換	経理課一般職員 (連携研 究支援室執行チーム)	一般職員 物性研究所共同利用係

(所内異動)

発令年月日	氏名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
R7. 4. 1	大淵 岳	昇任	総務課上席係長 (施設 チーム)	総務課係長 (施設チ ーム)
R7. 4. 1	本田 峻介	昇任	総務課係長 (総務チ ーム) / 総務チームチ ームリーダー	総務課主任 (総務チ ーム) / 情報支援チームチ ーム リーダー
R7. 4. 1	小山 優菜	昇任	経理課係長 (予算執行 チーム)	経理課主任 (予算執行 チーム)
R7. 4. 1	千葉 大輔	命	予算執行チームサブ リーダー	-
R7. 4. 1	海老沢 樹	命	情報支援チームチ ーム リーダー	-
R7. 4. 1	神谷 夏子	命	国際交流チームチ ーム リーダー	-

(再雇用)

発令年月日	氏名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
R7. 4. 1	齊藤 尚子	再雇用	総務課主事員 (研究総務 チーム)	-

昇任・着任のご挨拶

物質・環境系部門 教授
八木 俊介



令和7年4月1日付で教授に昇任致しました。平成28年4月の着任以来、蓄電池材料と電気化学触媒の研究に邁進し、その反応機構や反応速度を決定する因子について、着実に知見を深めて参りました。生研は教員と職員が丸となり連携する素晴らしい組織で、これまでいつも助けて頂きました。今後は、自らもより良い組織づくりと運営に貢献すると同時に、学理の探究に全力を尽くす所存です。今後ともご指導ご鞭撻のほど、何卒よろしく願い申し上げます。

物質・環境系部門 教授
池内 与志穂



4月1日に教授に昇任いたしました。iPS細胞から脳オルガノイドと呼ばれる神経組織を作り、つなげあわせて神経回路を構築する研究を行っています。生研に着任してから様々な方々から影響やアドバイスを受けて立ち上げた研究が成果を出し始めました。これから疾患治療や計算機応用などに発展させることを楽しみにしています。引き続きご指導・ご鞭撻のほど、何卒よろしく願い申し上げます。

昇任・着任のご挨拶

基礎系部門 客員教授 紙田 徹



4月1日付で高次協調モデリング客員部門の客員教授を拝命いたしました。本所属はインターステラテクノロジズ株式会社というスタートアップ企業でロケット開発を行っておりますが、昨夏までは(国研)宇宙航空研究開発機構でロケット構造開発および構造軽量化に向けたCFRP極低温推進薬タンクの研究等に携わっておりました。今後、本所の多様な分野の研究者の方々と交流させていただく中で視野を広げ、軽量タンクを実現したく考えております。これからどうぞよろしくお願いいたします。

基礎系部門 客員教授 崔 竣豪



4月1日付けで基礎系部門の客員教授に着任いたしました。本所属は東京都市大学です。都市大と生研との学術連携の架け橋として貢献できればと思っております。表面工学とトライボロジー分野を専門としており、超潤滑性、超撥液性、超平滑性の研究と応用を進めております。また、DLC膜を用いた高耐久性摩擦発電機の開発とその電気出力を用いた自己発電型機械要素モニタリングセンサーへの応用を目指しております。どうぞよろしくお願いいたします。

機械・生体系部門 特任教授 Vladimir Sukhorukov



My name is Vladimir Sukhorukov and I am a Senior Lecturer in the Department of Biotechnology and Biophysics at the University of Würzburg, Germany, where I work in the field of cell and membrane biophysics.

It is truly an honor to be a temporary member of your renowned institute.

During my stay at IIS, I will be working with Prof. Shirakashi on a project concerning the biomechanics of red blood cells. Our research will focus on the mechanisms of shape transformations and the associated mechanical properties of these vital cells.

I would like to express my sincere gratitude to Professor Shirakashi for his hospitality, scientific support, and excellent organization of my visit to Tokyo.

情報・エレクトロニクス系部門 特任教授 陳 柏宏



4月1日付で、生産技術研究所にて5ヶ月間の特任教授を務めることになりました。本務は台湾・陽明交通大学にて電気工学の教授を務めており、専門はパワーマネジメントICです。AIサーバー、電気自動車、IoT向けの半導体集積回路の研究を行っています。どうぞよろしくお願いいたします。

物質・環境系部門 准教授 徳本 有紀



4月16日付で准教授に昇任いたしました。「構造秩序物質科学」という分野名のもと、固体物質の構造秩序の中でも、これまで積極的に利用されてこなかった潜在的なパラメータに着目して構造秩序と物性の相関を明らかにし、新しい物性を引き出すことを目指して、新たな研究領域を切り拓いていきたいと思っております。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

物質・環境系部門 講師 鳴海 大翔



4月1日付で物質・環境系部門の講師に着任いたしました。SPring-8の放射光X線を活用した時間分解その場観察手法により、金属融液の中でどのように結晶が成長して凝固組織が発達するのかを直接観察し、観察事実に基づいた凝固現象の科学的理解や物理モデル・シミュレーションの構築・検証を通じて、金属材料・半導体材料プロセスの発展に寄与する実証的研究に取り組んでまいります。皆様のご指導、ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。

人間・社会系部門 講師 武藤 宝



4月1日付けで人間・社会系部門の講師として着任いたしました。これまで、身の回りにある空気をプレストレス材として用いることで超軽量・高剛性な構造物を実現する研究を進めて参りました。今後は、これまでの研究を継続しつつ、例えば木を生きのまま建築の骨組として用いる活動等の「いきものに寄った」研究を通して、空間構造の領域を広げられるよう努めてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

人間・社会系部門 特任講師 徳田 大輔



4月1日付けで特任講師に着任いたしました。2020年に当時人間・社会系部門の沖大幹教授のご指導の下博士号を取得し、2年前まで工学系研究科に特任助教として在籍させていただいておりました。アメリカで研究に従事した後、この生産技術研究所にまたお世話になることができ大変光栄に存じます。河川と湖沼、貯水池、海洋までを結ぶ陸域水動態に関する研究を行っており、最近では陸を切り口に大気のカオス性を理解することに興味があります。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

A W A R D S

受賞 教員

所属・研究室	職・氏名	受賞名・機関	受賞項目	受賞日
物質・環境系部門 塚本研究室	講師 塚本 孝政	第13回新化学技術研究奨励賞 公益社団法人 新化学技術推進協会	メタンドライリフォーミング反応の低温駆動に向けた金属・合金クラスター触媒に関する研究	2024. 6.25
物質・環境系部門 南研究室	准教授 南 豪	清山賞 公益社団法人 電気化学会 化学センサ研究会	実試料分析を可能とする有機電界効果トランジスタ型化学センサの開発	2025. 1.29
機械・生体系部門 山川研究室	修士課程2年 助教 藤井 勇人 平野 正浩 准教授 山川 雄司	SI2024 優秀講演賞 第25回計測自動制御学会 システムインテグレーション部門講演会	観測点の拡張によるデータ駆動型路側カメラ配置の効率化	2025. 2.17
機械・生体系部門 山川研究室	2023年3月修士課程修了 助教 松尾 瑛 准教授 山川 雄司	SI2024 優秀講演賞 第25回計測自動制御学会 システムインテグレーション部門講演会	動画逆再生による多数物体のトラッキングおよび計数	2025. 2.17
物質・環境系部門 塚本研究室	講師 塚本 孝政	第12回ヤマト科学賞 ヤマト科学株式会社	錯体、高分子、光、触媒など多彩な分野の知見を融合し、独自に開発した鋳型合成法と新理論を基にクラスター物質の未知の性質を実験・理論両面から解明し、次世代材料探索の新たな道を開いたという功績	2025. 3. 4
情報・エレクトロニクス系部門 野村研究室	特任助教 Diego Michele	応用物理学会 講演奨励賞 公益社団法人 応用物理学会	Automated tailoring of the phonon dispersion for highly anisotropic phononic crystal	2025. 3.14
情報・エレクトロニクス系部門 野村研究室	特任助教 柳澤 亮人	応用物理学会 シリコンテクノロジー分科会 研究奨励賞 公益社団法人 応用物理学会 シリコンテクノロジー分科会	High-power-density hybrid planar-type silicon thermoelectric generator with phononic nanostructures	2025. 3.14
物質・環境系部門 岡部(徹)研究室	教授 岡部 徹	TMS 2025 LEADERSHIP AWARD The Minerals, Metals & Materials Society	産業界、学術界、政府機関、技術機関の代表として、国内および国際的な冶金・材料分野で卓越したリーダーシップを発揮した個人に贈られる	2025. 3.26
物質・環境系部門 南研究室	准教授 南 豪	IEEE Japan Medal IEEE 東京支部	IEEE Senior Member への昇格に対して	2025. 3.27
情報・エレクトロニクス系部門 菅野(裕)研究室	准教授 落合 陽一 (筑波大学) 上級研究員 遠藤 謙 (産学共同コンピュータサイエンス研究所) Antennaプロジェクトリーダー 本多 達也 (富士通コンバージョンテクノロジー研究所)	令和7年度 科学技術分野の文部科学大臣表彰 科学技術賞 理解増進部門 文部科学省	AI技術の社会実装による身体/認知的多様性の理解増進	2025. 4.15
物質・環境系部門 南研究室	准教授 菅野 裕介	Wiley Top Viewed Article Wiley-VCH	Chemistry - An Asian Journal,"Zn(II) - Dipicolylamine - Attached Amphiphilic Polythiophene for Quantitative Pattern Recognition of Oxyanions in Mixtures	2025. 4.16
物質・環境系部門 南研究室	准教授 南 豪	Wiley Top Viewed Article Wiley-VCH	ChemNanoMat,"Methodologies for Spontaneous Preparation of Chemosensors and Their Arrays Using Off - the - Shelf Reagents"	2025. 4.16
物質・環境系部門 南研究室	准教授 南 豪	Wiley Top Viewed Article Wiley-VCH	physica status solidi (a) applications and materials science,"Organic Transistor-Based Chemical Sensors for Real - Sample Analysis"	2025. 4.16
基礎系部門 梅野研究室	研究員 久保 淳 (日本原子力研究開発機構) 教授 梅野 宜崇	若林論文賞 耐火物技術協会	機械学習型原子モデルを用いた分子動力学法によるアモルファス炭化珪素のクリープ特性解析	2025. 4.21
物質・環境系部門 石井研究室	助教 檜垣 達也	Nanoscale Horizons Award The Society of Nano Science and Technology, Nanoscale Horizons	「Exploring the Reactivity of Iron-Group Metal Nanoclusters Synthesized by Metal Hydride Metathesis」に関する研究	2025. 5.14-16
物質・環境系部門 中川研究室	講師 中川慎太郎	第16回ブリヂストンソフトマテリアルフロンティア賞 一般社団法人 日本ゴム協会	未踏の力学物性を示す高均一ゴムの創製	2025. 5.19
基礎系部門 竹本研究室	横山 卓矢 代表取締役 CEO 特任教授 竹本真一郎	科学技術賞 一般社団法人 日本高圧力技術協会	受賞論文「機械学習を用いた樹脂ライナー複合高圧水素素容器の最適設計仕様探索」(圧力技術第62巻1号)	2025. 5.23
基礎系部門 金澤研究室	准教授 金澤 直也	船井学術賞 公益財団法人 船井情報科学振興財団	実空間と運動量空間のトポロジーを融合した新奇量子相の創出とスピン機能開拓	2025. 5.24
機械・生体系部門 山川研究室	修了生 特任研究員 安 辰 助教 村上 健一 助教 平野 正浩 准教授 山川 雄司	部門優秀論文表彰 一般社団法人 日本機械学会 ロボティクス・メカトロニクス部門	高機能3Dプリンティングのための動的補償システムの開発と評価	2025. 6. 5
人間・社会系部門 大岡研究室	教授 大岡 龍三	電気設備学会賞 学術部門 資料・総説奨励賞 一般社団法人 電気設備学会	特集記事「建築エネルギー管理運用における AI 活用」	2025. 6.12

●受賞決定時の職名(学年)を記載しています。

受賞 学生

所属・研究室	職・氏名	受賞名・機関	受賞項目	受賞日
人間・社会系部門 川添研究室	博士課程2年 黄 心儀	第65回 リバネス研究費 吉野家賞 株式会社リバネス、株式会社吉野家	窓景観が食体験に与える生理的・心理的影響：食事空間におけるデジタル窓の活用による対照実験	2024.11.24
機械・生体系部門 山川研究室	修士課程2年 助教 藤井 勇人 平野 正浩 准教授 山川 雄司	SI2024 優秀講演賞 第25回計測自動制御学会 システムインテグレーション部門講演会	観測点の拡張によるデータ駆動型路側カメラ配置の効率化	2025. 2.17
情報・エレクトロニクス系部門 吉永研究室	博士課程2年 趙 信 2023年度博士研究員 大葉 大輔 准教授 吉永 直樹	言語処理学会第31回年次大会 スポンサー賞 日立製作所賞 言語処理学会第31回年次大会	多角的な評価から大規模言語モデルにおける事実知識の想起の要因分析	2025. 3.13
基礎系部門 芦原研究室	博士課程3年 津坂 裕己	第57回(2024年秋季) 応用物理学会講演奨励賞 公益社団法人 応用物理学会	中赤外フェムト秒パルスによる振動回転ラダークライミング	2025. 3.14
物質・環境系部門 小倉研究室	修士課程2年 佐久間志帆	第135回触媒討論会 学生ポスター発表賞 一般社団法人 触媒学会	ニューラルネットワークポテンシャルを用いたPd交換ゼオライト触媒のメタン燃焼反応活性予測	2025. 3.18
物質・環境系部門 立間研究室	修士課程1年 伊藤 拓哉	電気化学会第92回大会・優秀学生講演賞 公益社団法人 電気化学会	可視無偏光に対し非対称透過挙動を示す磁気キラルFe ₃ O ₄ -Ag ナノ複合体の光電気化学的作製	2025. 3.19

A W A R D S

受賞 学生

所属・研究室	職・氏名	受賞名・機関	受賞項目	受賞日
情報・エレクトロニクス系部門 佐藤 (洋) 研究室	修士課程2年 特任研究員 助教 教授 Haolan Wei Yifei Huang 古田 諒佑 佐藤 洋一	the most outstanding presentation at the GlobalNet Workshop IEICE(The Institute of Electronics, Information, and Communication Engineers General Conference)	Learning Representations of Key Steps in Procedural Activities with Refined Step Descriptions	2025. 3.24
情報・エレクトロニクス系部門 合田研究室	修士課程2年 御手洗陽紀	令和六年度電子情報学専攻長賞 東京大学大学院情報理工学系研究科電子情報学専攻	量子ランダムアクセスメモリ上の関係データベース管理に関する研究	2025. 3.24
物質・環境系部門 小倉研究室	修士課程2年 山崎 萌音	化学システム工学専攻修士論文研究最終発表会 Outstanding Presentation Award 東京大学大学院工学系研究科化学システム工学専攻	MOFを前駆体として用いたCo ₂ 水素化触媒の設計	2025. 3.25
物質・環境系部門 南研究室	博士課程3年 松本 彬	CSJ Student Presentation Award 2025 公益社団法人日本化学会	[A]D501-4am-06 Gene Carriers Endowed with Intracellular Barriers-Crossing Capabilities Based on Molecular Recognition	2025. 4.18
基礎系部門 福谷研究室	博士課程3年 ムハンマド イルファンディ	優秀学生ポスター講演賞 (Outstanding Student Poster Award) 日本表面真空学会 関東支部 (The Japan Society of Vacuum and Surface Science Kanto Chapter)	Investigation of Black Rutile TiO ₂ (110) by Photoemission Spectroscopy and In-Situ Electrical Conductivity Measurement	2025. 4.18
物質・環境系部門 砂田研究室	博士課程2年 菅 雄翔	日本化学会第105春季年会 学生講演賞 公益社団法人 日本化学会	環状鉄ビスリル骨格を基軸とする脱酸素反応	2025. 4.25
情報・エレクトロニクス系部門 岩本研究室	博士課程2年 落合 夏葉 鳥海 陽平 高橋 円 (日本電信電話株式会社) 教授 岩本 敏	OWPT2025 Paper Award OWPT2025 conference committee	Design of Metasurface-based Beam Homogenizer for Optical Wireless Power Transmission	2025. 4.25
情報・エレクトロニクス系部門 高宮研究室	博士課程1年 鋤田 陽平	LSI とシステムのワークショップ優秀ポスター賞 (学生部門) 電子情報通信学会集積回路研究専門委員会	Demonstration of Efficiency Increase of 350V-to-13.3V Isolated DC-DC Converters for Electric Vehicles by Active Gate Driving	2025. 5.14
人間・社会系部門 竹内 (渉) 研究室	博士課程3年 内藤 千尋	Award of Excellent Contestant Korean Society of Remote Sensing	Parameterization of time-varying vegetation scattering albedo for soil moisture retrieval in oil palm with AMSR2	2025. 5.16
情報・エレクトロニクス系部門 佐藤 (洋) 研究室	博士課程3年 大川 武彦 Kun He Fadime Sener Tomas Hodan Luan Tran Cem Keskin (researchers at Meta)	EgoVis 2023/2024 Distinguished Paper Award CVPR 2025 Joint Egocentric Vision (EgoVis) Workshop	AssemblyHands: Towards Egocentric Activity Understanding via 3D Hand Pose Estimation	2025. 6.12

●受賞決定時の職名(学年)を記載しています。

受賞のことば

人間・社会系部門
川添研究室 博士課程2年
黄 心儀

このたびは研究に関する賞を頂き、大変光栄に思います。研究者として、今後も建築学や飲食業界における科学技術の発展に少しでも貢献できるよう、努力を続けてまいります。本研究を進めるにあたり、ご協力いただいた川添善行研究室の皆様にご心より感謝申し上げます。また、技術面で多大なご支援をいただいた大阪公立大学の王曉鋭様にも、深く御礼申し上げます。今回の受賞を励みに、今後も実りある研究を目指して取り組んでまいります。



機械・生体系部門
山川研究室 修士課程2年
藤井 勇人

このたびは計測自動制御学会 システムインテグレーション部門SI2024にて優秀講演賞をいただき、大変光栄に存じます。本研究を支えてくださった方々に心より感謝申し上げます。特に山川雄司准教授、平野正浩助教にはご指導をいただき、誠にありがとうございました。



情報・エレクトロニクス系部門
吉永研究室 博士課程2年
趙 信

この度は、言語処理学会第31回年次大会において日立製作所賞という名誉ある賞を賜り、誠にありがとうございます。本研究では、大規模言語モデルに内在する事実知識がどのように想起されるかを、多角的な視点から分析する手法を提案いたしました。モデルが持つ知識の再現性や多様性に着目し、より精緻な理解に向けた第一歩となることを目指しました。今回の受賞を励みに、今後も言語モデルの内面に迫る研究を情熱を持って進めて参ります。



基礎系部門
芦原研究室 博士課程3年
津坂 裕己

このたび、第85回応用物理学会秋季学術講演会において講演奨励賞をいただきました。本発表では、中赤外パルスによって分子の高振動励起状態において回転波束生成と配向制御を実証し、光で反応選択性を高める可能性を示しました。日頃からご指導いただいている芦原聡教授、森近一貴助教、研究室の皆様にご心より感謝申し上げます。この賞を励みに、本手法をさらに磨き上げ、より柔軟な光制御で化学反応設計の幅を広げるべく精進します。



AWARDS

物質・環境系部門
小倉研究室 修士課程2年
佐久間 志帆



この度、第135回触媒討論会において、学生ポスター発表賞をいただきました。本発表では、ニューラルネットワークポテンシャルを活用したPd交換ゼオライト触媒によるメタン燃焼反応活性の予測に関する研究成果を報告いたしました。常に丁寧かつ熱心なご指導をいただきました小倉賢教授、安村駿作助教をはじめ、日頃より多大なるご支援をくださった研究室の皆様、心より深く感謝申し上げます。今後も一層研究に精進し、さらなる成果を挙げられるよう努めてまいります。

情報・エレクトロニクス系部門
佐藤(洋)研究室 修士課程2年
Haolan Wei



I am very glad to receive this achievement. I would like to express my gratitude to my thesis advisor Professor Yoichi Sato-sensei. His guidance and encouragement greatly shaped my understanding of my research. Also, I am also sincerely thankful to all the members of the Y. Sato Lab for their support, which helped me overcome many challenges along the way. I will continue striving for excellence and look forward to achieving even more in the future.

物質・環境系部門
小倉研究室 修士課程2年
山崎 萌音



この度はOutstanding Presentation Award という輝かしい賞を頂戴し誠に光栄に思います。日々ご指導をいただいた先生方に心から感謝申し上げます。先生方の温かいサポートと貴重なアドバイスをいただければ、この成果は得られません。研究からは離れてしましますが、今後もこの修士課程で得たことを糧に、学び続け、成長していけるよう努力を重ねていきます。ありがとうございました。

基礎系部門
福谷研究室 博士課程3年
ムハンマド イルファンディ



It is a great pleasure to receive the Outstanding Student Poster Award in the JVSS Kanto Chapter Meeting. This achievement is accomplished owing to the extensive suggestions and constructive criticism from Prof. Fukutani Katsuyuki, Dr. Ozawa Takahiro, and other lab members. Our work aims to elucidate the formation mechanism of a promising photocatalyst, known as black TiO₂. By using our unique experimental technique, we could bring together a macroscopic property (electrical conductivity) and a microscopic property (electronic structure by photoemission spectroscopy) such that a comprehensive insight is attained. The award surely motivates me to carry out further research of TiO₂ and other materials.

物質・環境系部門
立間研究室 修士課程1年
伊藤 拓哉



この度、電気化学会第92回大会にて優秀学生講演賞を受賞いたしました。本研究では、磁性とキラリティを持つナノ複合体を光電気化学的に作製し、可視無偏光に対して非対称な透過を示すことを報告しました。本受賞に際して、ご指導いただいた立間徹教授、石田拓也助教、学会に向けて共に取り組んでいた堀内先輩をはじめ、立間研究室の皆様にご感謝申し上げます。

情報・エレクトロニクス系部門
合田研究室 修士課程2年
御手洗 陽紀



この度、電子情報学専攻長賞を頂戴しました。学生生活の集大成である修士論文に対して、このような名誉ある賞をいただけたことを、大変光栄に存じます。この度の受賞は、合田和生教授をはじめ、私の学生生活に直接的・間接的に関わってくださったすべての方々のご支援のおかげです。深く感謝申し上げます。今回の受賞を励みに、これからは社会に貢献できるよう、努力してまいります。

物質・環境系部門
南研究室 博士課程3年
松本 彬



この度、日本化学会第105回春季年會にて学生講演賞を受賞いたしました。本発表では、効果的な遺伝子送達材料の開発を目指し、分子認識化学に基づいて設計した2種類の人工キャリアを報告いたしました。本受賞に際しまして、日頃からご指導頂いている南豪准教授をはじめ、研究室の皆様にご心より御礼申し上げます。

物質・環境系部門
砂田研究室 博士課程2年
菅 雄翔



3月に大阪にて開催された日本化学会第105回春季年會(2025)で、「環状鉄ビスシリン骨格を基軸とする脱酸素反応」というタイトルの口頭発表を行い、学生講演賞を賜りました。本発表では、2本の鉄-ケイ素結合を活かした炭素-酸素二重結合の切断反応を経る鉄カルベン錯体合成と、その機構解析を主とした結果について報告しました。本受賞を励みに、更に金属とケイ素の化学を拓けていけるよう邁進して参ります。

AWARDS

情報・エレクトロニクス系部門
岩本研究室 博士課程2年
落合 夏葉



この度、第7回光無線給電および光ファイバ給電国際会議にてPaper Awardを受賞いたしました。

本研究では光無線給電のための光メタサーフェスを用いたフラットトップビーム整形を提案し、その効果を検証しました。

光メタサーフェスはサブ波長の表面構造を持つ非常に薄いデバイスで、これを用いることでシステムが軽量になり、光無線給電の可能性を広げると考えています。

沢山の議論と懇切丁寧なご指導をしてくださった岩本敏教授、共著者の皆さま、サポートしていただいた研究室の皆さまに感謝申し上げます。

情報・エレクトロニクス系部門
高宮研究室 博士課程1年
鋤田 陽平



この度、LSIとシステムのワークショップ内にて行われたポスターセッションにて、学生部門での優秀ポスター賞を受賞いたしました。修士課程にて取り組んでいた研究を表彰していただき、非常に光栄でございます。指導教官である高宮真教授をはじめ、研究をサポートしてくださった皆様、この場をお借りしてお礼申し上げます。今後も、電力変換器のさらなる効率化に向けた駆動方式の提案、並びに高効率化を達成する集積回路の設計に向けて精進する所存でございます。

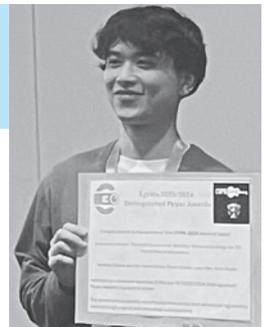
人間・社会系部門
竹内(渉)研究室 博士課程3年
内藤 千尋



このたび、International Symposium on Remote Sensing (ISRS) 2025におけるPaper Competitionにて、栄えある賞をいただくことができました。本研究では、人工衛星データを活用した土壌水分推定において、オイルパームの土地被覆に適したパラメータの調整を目的とし、その特徴を詳細に分析した上で、機械学習を用いて最適値を再現するモデルを構築いたしました。

日頃より温かくご指導くださっている竹内渉教授に、心より深く感謝申し上げます。今回の受賞を励みに、今後もより一層、研究活動に邁進してまいります。

情報・エレクトロニクス系部門
佐藤(洋)研究室 博士課程3年
大川 武彦



この度は、コンピュータビジョンに関するトップ国際会議であるCVPR2025にて、EgoVis 2023/2024 Distinguished Paper Awardを受賞いたしました。受賞対象となった研究論文AssemblyHandsは、2022年の米Meta社でのインターンシップの成果をまとめたもので、CVPR 2023で発表されました。Metaの共同研究者の皆様、そして指導教員の佐藤洋一教授に深く感謝申し上げます。

本研究は、一人称視点からの行動理解のための3次元手姿勢推定の有用性に焦点を当てました。特に、複数のカメラ設備と3次元のボリュメトリック三角測量法を組み合わせることで、3次元手姿勢アノテーションの精度を大幅に向上させました。AssemblyHandsの影響は大きく、その後のICCVとECCVでのワークショップ開催、さらにICLRとCVPR 2024での追跡研究へと繋がっています。今後も一人称視点映像解析分野に貢献していきたいと思っております。

SNAPSHOTS

駒II音楽祭 2025年度第1回を開催

駒II音楽祭は本所および本学 先端科学技術研究センターの共催として開催され、今年度、2年目を迎えます。その第1回となる公演が5月29日19時より本所S棟プレゼンテーションルームにて、駒場リサーチキャンパス公開前夜祭と位置づけ、開催されました。

音楽監督を務める近藤 薫 特任教授(先端研)の声がけにより、日本のクラシック音楽界をリードする演奏家16名がensemble eveを結成しました。珍しい木管五重奏や、S棟の建築を活かした、2階後方窓からのホルン独奏(メシアン「峡谷から星々へ」より「恒星の呼び声」)など「駒II」ならではの実験を加えつつ、異なる時代に生きた作曲家たちが見つめた生命や宇宙をテーマにした演奏が披露されました。



駒II音楽祭 第五回公演
音楽監督:近藤 薫 東大先端研特任教授

駒場リサーチキャンパス公開 前夜祭

響創

2025.5.29(木) 開演19:00 (開場18:30)

【出演】
ensemble eve
近藤薫 荒井優利奈 北田千尋
水野琴音 須田祥子 田口優子
矢口里菜子 遠藤将一郎 高木綾子
荒木美実 アレクサンδρο・ロベクエタリ
皆神剛太 福川伸樹 佐藤友紀 他

【曲目】
Rワーグナー
ジークフリート牧歌
M.メシアン
峡谷から星々へより 恒星の呼び声
作曲:近藤 薫
演奏:四重奏11番=編曲 死乙女、29番2楽章
他

会場:駒場リサーチキャンパス S棟プレゼンテーションルーム
主催:東大先端科学技術研究所・東大先端科学技術研究センター
協力:駒II音楽会

■ 常務委員会および各種委員会委員長一覧

令和7年度常務委員会および各委員会委員長は下記のとおりです。

令和7年度常務委員会

委員 令和7年4月1日改選（任期1年）

所 属	氏 名
議 長	年吉 洋
基礎系	清田 隆
〃	芦原 聡
機械・生体系	白樫 了
〃	吉岡 勇人
情報・エレクトロニクス系	佐藤 洋一
〃	野村 政宏
物質・環境系	砂田 祐輔
〃	菅野 智子
人間・社会系	桑野 玲子
〃	腰原 幹雄

令和7年度各種委員会委員長

役 職	氏 名
企画運営室長	竹内 渉
リサーチ・マネジメント・オフィス室長	野村 政宏
次世代育成オフィス室長	大島 まり
広報室長	佐藤 洋一
国際・産学連携室長	岡部 洋二
社会連携・史料室長	川添 善行
特別研究審議委員長	平本 俊郎
キャンパス公開実行委員長	佐藤 洋一
キャンパス・施設委員長	大口 敬
キャンパス・施設部会長	大岡 龍三
スペース管理専門部会長	小倉 賢
施設管理専門部会長	大岡 龍三
実験施設運営管理専門部会長	小倉 賢
クリーンルーム設備管理運営分科会主査	岩本 敏
水槽設備管理分科会主査	林 昌奎
次世代モビリティ研究設備管理分科会主査	中野 公彦
振動台及び静的载荷装置等関連設備管理分科会主査	川口 健一
駒場分析コア分科会主査	溝口 照康
建築都市環境実験関連設備管理分科会主査	大岡 龍三
安全管理委員長	年吉 洋
防災・安全部会長	工藤 一秋
防災専門部会長	清田 隆
BCM推進ワーキンググループ長	清田 隆
環境安全管理専門部会長	砂田 祐輔
環境安全管理室長	工藤 一秋
バイオサイエンス安全専門部会長	池内与志穂
放射線安全専門部会長	枝川 圭一
遺伝子組換え生物等安全委員長	金 範峻
動物実験委員長	金 範峻
研究用微生物委員長	金 範峻
ユーティリティー委員長	溝口 照康
情報倫理審査会主査	高橋 琢二
大規模実験高度解析推進基盤運営会議委員長	北澤 大輔
価値創造デザイン推進基盤運営会議委員長	今井公太郎
情報委員長	豊田 正史
データベース部会長	山崎 大
情報セキュリティ部会長	新野 俊樹
利益相反アドバイザー機関委員長	町田 友樹
知的財産室長	白樫 了
厚生健康委員長	河野 崇
技術職員等研修委員長	半場 藤弘
予算委員長	福谷 克之
教育・学務委員長	福谷 克之
技術部連絡会議長	年吉 洋
レビュー制度委員長	酒井 啓司

暮らしの中のメキシコ —国費留学生としての1年から

人間・社会系部門 林 憲吾 研究室 修士課程1年 樺山 菜々

4月29日(火)、迫る雨季の雨音を聞きながら、メキシコシティにて本稿を執筆しています。私は本所人間・社会系部門で林 憲吾 准教授の指導のもと都市・建築史を研究し、2024年8月よりメキシコ政府の国費留学生として当地に滞在しています。現在はスペイン語習得のため語学学校に通いながら、修士論文のテーマを構想しています。

皆さんは「メキシコ」と聞いて何を思い浮かべますでしょうか？日本の友人たちからはよく、タコスと麻薬の国、と言われます。あながち間違いではないのが興味深いところですが、それ以上に、私は日々この国の文化の豊かさに圧倒されています。都市や農村での生き生きとした人々の暮らし、紀元前から続く先住民文化、そして西洋的な美しい街並みや教会まで。メキシコは当初の予想を超えて様々な表情を見せてくれる素晴らしい国です。

私が思うメキシコの最大の魅力は、都市部が発展し不自由なく暮らすことができる一方で、過度に都市化されず路上に人々の生活が溢れていることです。高層ビルの合間に果てしなく続くテント市の間を歩きながら呼び込みの声を聞く時、この国の溢れんばかりのエネルギーを感じます。もちろん経済格差は激しく治安は良いとは言えませんが、私自身は危ない思いをしたことはなく安心して暮らすことができます。とはいえ、大学や駅構内に行方不明者の情報が貼られているのが常ですから、気は引き締めて生活しています。食事については、初めは味が単純に感じましたが(脂っこい・辛い・塩辛い)、徐々に味覚が慣れ、今ではすっかり虜です。果物に唐辛子をかけるなど未だ適応できない部分もありますが、昼は外でタコス、家では日本食というサイクルで美味しく不自由なく暮らしています。

日々の暮らしで特に面白く感じるのは、外国人の

私にも「トイレどこ?」「両替して」といった声が気軽にかかることです。これは都市部だけでなく、アジア人など1人もいないような田舎町で、周りにメキシコ人がいても起こります。日本人が田舎町で同じような質問を訪日客にしている光景が想像できるでしょうか？相手が誰かをあまり気にしない国民性が理由のようですが、この肩肘を張らなくていい雰囲気は、移住者として非常に有難く、日本でも見習いたい部分だと感じます。ちなみに、逆にこちらが質問すると間違った答えを自信を持って教えてくれるのが常ですから、3重のチェックが必須です。そうした部分にも日々メキシコらしさを感じています。

そのほか、私が最近魅了されているのはメキシコの先住民文化と68に及ぶその多様な言語です。メキシコは約500年前にスペインに征服され、現在では国民の8割以上がカトリック教徒です。しかし先住民文化は失われたわけではなく、時に西洋文化と融合しながら今日に至るまで存続しています。地方の村を訪ねると、住民同士の会話が先住民言語で行われているのは当たり前で、車で30分の隣村と言葉が通じないことも珍しくありません。そうした文化の多様性に触れるのが楽しく、最近は研究調査も兼ねて各地の遺跡や教会などを巡り、地域独特の祭りにも積極的に参加しています。

本稿では専門の建築や研究に関してほとんど触れないままになってしまいましたが、右も左も分からないまま飛び込んだメキシコでの生活も残すところあと3ヶ月となりました。この1年間の経験は私の都市と民族多様性に対する視野を大きく広げてくれましたし、日本での生活を振り返る良い機会にもなりました。帰国後はこの経験を糧に修士研究に邁進したいと思います。



メキシコシティのティアングス(テント市)の様子。
規模によっては数キロに及ぶことも。



チアパス州テネハバ村の祭りにて、
自家製発酵飲料チチャを振る舞ってもらった筆者。



災害対策の知と型の発信：DMTCの挑戦と国際展開

人間・社会系部門 准教授 沼田 宗純

本研究室では、本所附属災害対策トレーニングセンター（DMTC）を運営し、組織的かつ継続的に災害対策に関する専門教育を推進している。行政職員の減少が進む中、従来の行政主導による災害対策だけでは対応が困難となる状況が想定されており、災害対策の現場では専門的な知識と技能が一層求められている。

こうした背景を踏まえ、企業や住民などによる共助の力を底上げすることを目的として、「8分野・47種類の災害対策業務」というフレームワークを基本型として、専門知識および基本技能を体系的に習得できるトレーニングプログラムを構築している。これらのプログラムは、基礎プログラムと専門プログラムの二本立てで構成され、実践的かつ災害対策の原理原則（基本型）を学ぶ内容となっている。

専門プログラムの一環として、2025年度からは日本郵政株式会社と連携し、東京都杉並区浜田山に体験型訓練施設「アクションフィールド東京」を整備し、より実践的なトレーニング環境の提供を開始している（図1）。災害時には、被災地域の早期復旧において土木系専門職の果たす役割が極めて重要であるが、近年の人材不足により、現地での円滑な土木作業の実施が困難となる事例も見られる。こうした課題に対応するため、地域コミュニティの力を活かし、重機の操作訓練を含む基礎技能の習得機会を提供し、地域主体による災害対策力の向上を図っている。

また、アウトリーチ活動として、和歌山県白浜町における孤立集落対策の取り組みなど、地域特性に即した災害対策の実践を通じて、地域づくりへの貢献も進めている（図2）1,2）。

さらに、本学大学院情報学環と連携し、2024年度からは東京大学履修証明プログラム「災害対策エグゼクティブプログラム（DSEP）」を開始し、本格的なリカレント教育を展開している。経営者や投資家など、幅広い層の受講者を迎えており、2024年度の第一期生は28名、2025年度の第二期生は30名が入学し、学習を進めている。

加えて、「災害対策士」という能力認定制度も開始した。本制度は当初、本学として商標登録したものであるが、教育と認証の機能を明確に分離するため、新たに一般社団法人を設立し、認証業務は当該法人にて実施する体制を整えている。

また、国際的な展開として、日本の災害対策の「型」を発信することを目的に、海外の政府職員等を対象としたトレーニングも実施しており、今後はその国際展開をさらに本格化させていく予定である。

- 1) 伊藤 嘉信, 伊藤 映美, 柴田 大雅, 中野 仁詩, 吉田 克也, 沼田 宗純：災害対策トレーニングプログラムの設計手法の検討—孤立集落を舞台とした白浜町椿地区での実施事例—, 生産研究, 76巻, 4号 p.325-338, 2024.
- 2) 柴田 大雅, 沼田 宗純, 吉田 克也：令和6年能登半島地震を踏まえた孤立想定集落住民等の防災意識—白浜町椿地区での孤立集落サミットを通じて—, 生産研究, 76巻, 4号 p.347-351, 2024.



図1 アクションフィールド東京での災害廃棄物マネジメントと重機安全講習の様子



図2 和歌山県白浜町の孤立集落のワークショップ（廃校となった旧椿小学校）

編集後記

大学院入試の出願期限が早まった関係で、例年より1週間早い開催となったキャンパス公開。結果的に2日目は、生研の設立日に重なりました。あいにく2日間とも雨でしたが、例年と同じ規模の来場者数だったのには驚きました。悪天候でもぶれないほど、キャンパス公開が多くの方に認知され、楽しみにしてもらっている証でしょう。雨降って、自信固まる。

生研の初めての研究所公開は、設立か

らちょうど5周年の1954年5月31日。まだ千葉に生研がある頃です。社会に研究所を開く活動として社会の先鞭をつけたと、当時の職員は回顧しておられます。現在、キャンパス公開後には生研同窓会が開かれており、今年は私も登壇の機会をいただきました。生研の社会に開く活動は、先人たちからミヤクミヤクとつながっているのだと実感した次第です。

(林 憲吾)

■東京大学生産技術研究所 広報室
〒153-8505 東京都目黒区駒場 4-6-1
(03) 5452-6017 内線 56018、56864

編集スタッフ

佐藤 洋一・林 憲吾・松山 桃世・浅井 竜也
巻 俊宏・豊田 正史・塚本 孝政・楠井 美緒
岡田麻記子・山田 雅之・松田さつき・米山 浩
木村真貴子

E-mail:iis-news@iis.u-tokyo.ac.jp

生研ホームページ

<https://www.iis.u-tokyo.ac.jp/>

生研ニュースはweb上でもご覧

いただけます

https://www.iis.u-tokyo.ac.jp/ja/about/publication/seiken_news/

